

平成 25 年度
老人保健事業推進費等補助金
(老人保健健康増進等事業分)

**BPSD の増悪により精神科病院への入院を要する認知症
患者の状態像の分類モデル及び退院後の在宅療養支援に
関する調査研究事業**

報 告 書

平成 26 年 (2014 年) 3 月

公益社団法人 全日本病院協会

目次

| | | |
|--------|------------------|----|
| 1 | 調査研究の目的と方法 | 1 |
| 2 | 調査票の回収状況 | 3 |
| 3 | 認知症患者の入退院の実態 | 4 |
| 3.1 | 入院の契機となった疾患とその分類 | 6 |
| 3.2 | 入院前の居場所と退院先 | 14 |
| 3.3 | 入院患者の認知症の状況 | 20 |
| 4 | 認知症・BPSD への対応状況 | 22 |
| 5 | 認知症患者の BPSD の事例 | 25 |
| 5.1 | 該当事例数別の施設数分布 | 25 |
| 5.2 | BPSD の程度とケアの負担感 | 27 |
| 5.3 | 精神科病院へ転院した事例の検討 | 32 |
| 6 | まとめと提言 | 39 |
| 資料 | 全項目の集計結果 | 42 |
| 附録 | 調査票 | 66 |
| 事業実施体制 | | 78 |

1. 調査研究の目的と方法

(1) 調査研究の目的

BPSD は早期発見と早期対応に重点が移ってきており、かかりつけ医には、認知症の早期発見や認知症患者の状態変化の把握が期待されている。一方、精神科病院では重度の BPSD の認知症患者の受入が求められており、かかりつけ医と病院との連携と役割分担を明確にしなければならない。

在宅療養している認知症患者の BPSD や併存している身体疾患等の増悪により、病院あるいは介護老人保健施設等への入院・入所が必要となり、患者状態像に応じて、どのような機能の施設で対応するかを判断することになる。入院・入所が必要な認知症患者がすみやかに医療・ケアを受けられるように、地域包括的な仕組みを強化していくことが期待されている。

本調査研究では、病院における認知症患者の入退院の実態、BPSD への対応状況を把握するとともに、認知症患者の BPSD の事例を収集して分析を行い、適切な施設へすみやかに入院・入所／退院・退所ができ、安心して在宅療養が継続できるような地域包括的ネットワークのあり方を検討し提言を行う。

(2) 調査研究の対象

本調査研究の対象施設は、一般病床・療養病床を有する病院とする。

図表1-1 本調査の施設の種類の客体抽出数

| 施設の種類 | 母体数 | 客体数 | 抽出率 |
|------------------|---------|---------|-----|
| 一般病床・療養病床を有する病院* | 6,794施設 | 2,400施設 | 35% |
| (うち) 一般病床100% | 3,021施設 | 800施設 | 26% |
| (うち) 療養病床100% | 1,298施設 | 800施設 | 62% |
| (うち) ケアミックス* | 2,277施設 | 800施設 | 35% |

※「ケアミックス」とは一般病床と療養病床のいずれも有する病院であり、かつ精神科病床を有しない病院とした。従って調査対象全体「一般病床・療養病床を有する病院」には、精神科病床を有する病院は含まれていない。

本調査研究は、施設調査と患者調査で構成されている。

患者調査の対象患者は、下記の事例に該当する入院患者とする。

【患者調査の対象者】

平成25年7月～9月の3か月間の入院患者のうち、下記のいずれかに該当する者を対象とする。

- (1) BPSD対応が必要でケアの負担感が大きい事例 (最大5事例まで) (注)
- (2) 精神科病院へ転院した事例 (最大5事例まで) (注)

(注) 該当する事例をリストアップした結果、5事例超(6事例以上)となっている場合は、リストアップした結果から5事例を無作為抽出してもらう。

(3) 調査研究の内容

調査票(施設調査票、患者調査票、及び患者調査の補助票の3種類)と記入要領を作成し、調査協力依頼状と一緒に調査対象の病院の管理者宛に郵送した。

調査対象の病院において記入した調査票を返送してもらう調査方法とした。

《施設調査票の調査項目》

| | |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| I. 基本情報 | 開設者、許可病床数、入院基本料／特定入院料の届出状況、併設の施設・事業所、職員数 |
| II. 入院患者の受入状況 | 認知症の有無別、入院前の居場所別、併存している精神疾患別、及び入院の契機となった疾患別の新規入院患者数 |
| III. 認知症入院患者への対応状況 | 認知症の状態別の入院患者数、認知症患者の BPSD 対応マニュアルの導入状況、認知症と身体疾患の合併への対応状況、認知症ケアパスへの取り組み状況 |
| IV. 入院患者の退院状況 | 退院先別の退院患者数 |
| V. 他の医療機関等との連携状況 | 自院で対応困難な身体症状／認知症・BPSD に対応できる医療機関の把握状況、在宅の認知症患者への診療／支援状況及び支援における連携先の状況 |

《患者調査票の調査項目》

入院日、退院状況、性別、年齢、認知症の診断名、入院前の居場所、認知症／障害高齢者の日常生活自立度、要介護度、入院前のかかりつけ医、入院前に利用していた主なサービス、入院していた病棟の種別、入院の契機となった疾患、認知症の重症度、認知症の周辺症状、BPSD の程度と介護者が感じている負担度

2. 調査票の回収状況

調査票の発送数及び回収数を図表 2-1 に示す。

図表2-1 調査票の発送数及び回収数

| 施設の種類 | 発送数 | 回収数 | 回収率 |
|-----------------|---------|-------|-------|
| 一般病床・療養病床を有する病院 | 2,400施設 | 292施設 | 12.2% |
| (うち) 一般病床100% | 800施設 | 89施設 | 11.1% |
| (うち) 療養病床100% | 800施設 | 110施設 | 13.8% |
| (うち) ケアミックス | 800施設 | 93施設 | 11.6% |

調査票の種類別の回収状況を図表2-2に示す。「補助票」で、BPSD対応が必要で負担感が大きい事例、及び精神科病院へ転院した事例に該当する患者数を訊いており、いずれの事例にも該当患者がいないと回答した施設は 108件 (44.8%) あり、これらの施設からは「施設調査票」と「補助票」のみ提出となり、該当患者がいなかったため「患者調査票」の提出は不要になる。

図表2-2 調査票の種類別の回収状況

| 施設の種類 | 施設調査票 | 患者調査票 | 補助票 |
|-----------------|-------|-------|------|
| 一般病床・療養病床を有する病院 | 292件 | 635件 | 241件 |
| (うち) 一般病床100% | 89件 | 157件 | 71件 |
| (うち) 療養病床100% | 110件 | 246件 | 94件 |
| (うち) ケアミックス | 93件 | 232件 | 76件 |

3. 認知症患者の入退院の実態

施設調査票における入院患者数に係る設問を集計・分析した結果を以下に示す。本章での集計・分析の対象としたデータの患者数を図表 3-1 に示す。

なお、本調査研究における「認知症患者」とは、認知症である高齢者の日常生活自立度判定基準のランクⅡb以上の患者のことである。

<認知症である高齢者の日常生活自立度の判断基準等>

↓
認知症
(本調査研究での定義)

| ランク | 判断基準 | 見られる症状・行動の例 |
|-------|------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| I | 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。 | |
| II | 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。 | |
| II a | 家庭外で上記Ⅱの状態が見られる。 | たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等 |
| II b | 家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。 | 服薬管理ができない、電話の応答や訪問者との対応など一人で留守番ができない等 |
| III | 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。 | |
| III a | 日中を中心として上記Ⅲの状態が見られる。 | 着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる。 やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等 |
| III b | 夜間を中心として上記Ⅲの状態が見られる。 | ランクⅢ aに同じ |
| IV | 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。 | ランクⅢに同じ |
| M | 著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。 | せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等 |

なお、新規入院患者数及び退院患者数は、平成 25 年 7 月～9 月の 3 か月間に入
院／退院した患者数とした。入院患者数（1 時点）は、平成 25 年 10 月 1 日時点で
在院している患者数とした。

図表 3-1 集計・分析の対象とした患者数

| | 集計・分析の対象とした患者数 | | |
|---------------|----------------|----------|---------|
| | 一般病床 | 医療療養 | 介護療養 |
| 新規入院患者（3 か月間） | 60,895 人 | 5,570 人 | 642 人 |
| （うち）認知症患者 | 6,140 人 | 2,027 人 | 428 人 |
| 入院患者（1 時点） | 13,306 人 | 12,126 人 | 3,474 人 |
| （うち）認知症患者 | 2,010 人 | 5,251 人 | 2,467 人 |
| 退院患者（3 か月間） | 59,810 人 | 6,003 人 | 673 人 |
| （うち）認知症患者 | 6,253 人 | 2,345 人 | 458 人 |

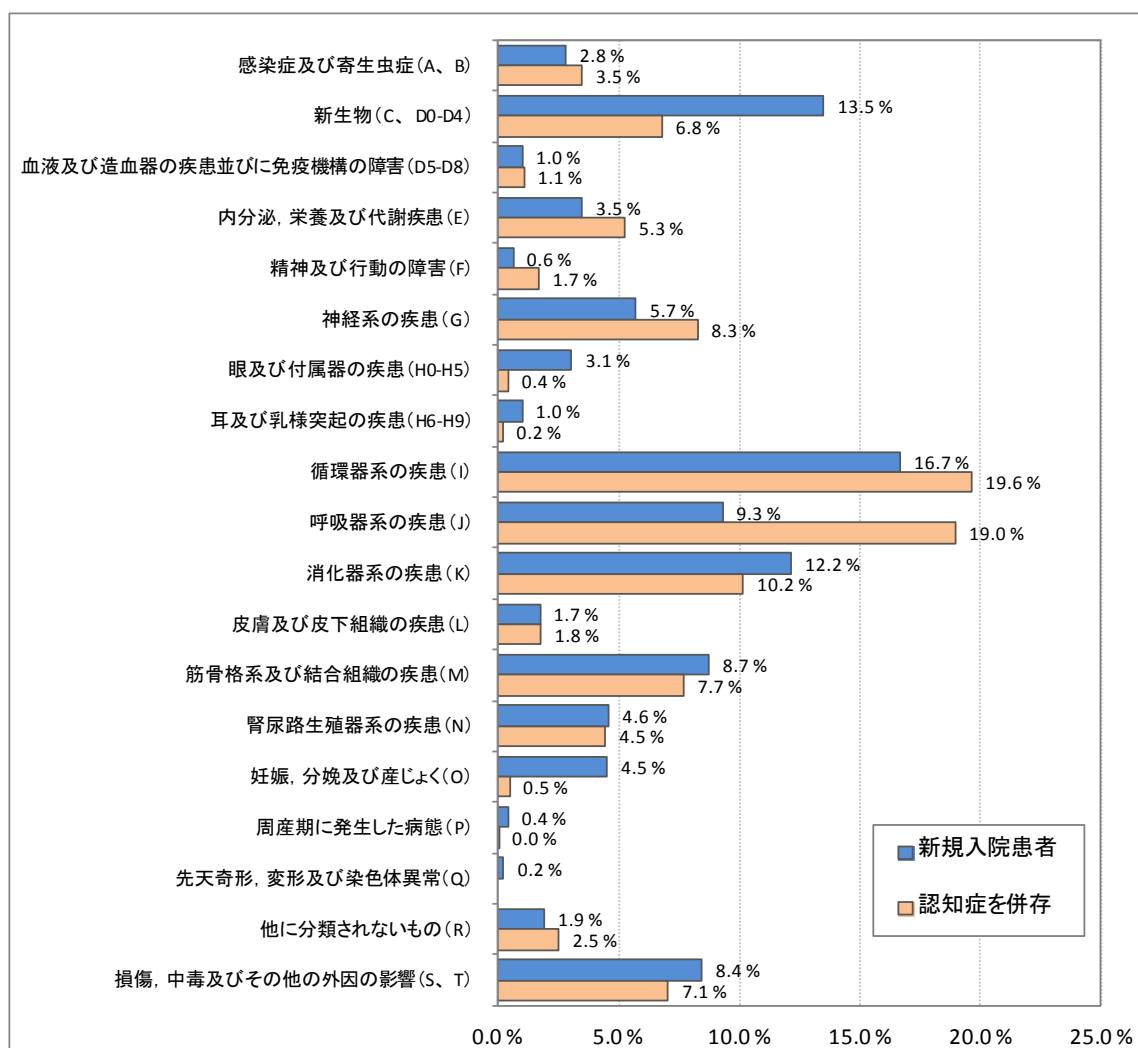
また、以降の集計・分析で使用する「全体での構成比」、「認知症患者での構成比」、
「認知症患者の割合」の定義を以下に示す。なお、「当該区分」とは、疾患別であれ
ば疾患名の区分、退院先別であれば退院先の区分の 1 つのことである。

| | |
|------------|---------------------------|
| 全体での構成比 | = 当該区分の患者数 / 全体の患者数 |
| 認知症患者での構成比 | = 当該区分の認知症患者数 / 全体の認知症患者数 |
| 認知症患者の割合 | = 当該区分の認知症患者数 / 当該区分の患者数 |

3. 1 入院の契機となった疾患とその分類

一般病床において、入院の契機となった疾患別の新規入院患者の構成比と、新規入院の認知症患者での構成比を比較したものを図表 3-2 に示す。疾患によっては両者の構成比が大きく違っており、例えば「新生物」では全体の構成比が 13.5%であるのに対し、認知症患者での構成比は 6.8%となっている。

図表 3-2 入院の契機となった疾患別の患者構成比（一般病床）



全体での構成比と、認知症患者での構成比の違いは、当該疾患における認知症患者割合の違いで説明できる。すなわち、認知症患者での当該疾患の構成比は、全体での構成比に当該疾患の認知症患者割合を乗じた値に比例する。

$$\text{(認知症患者での構成比)} \propto \text{(全体での構成比)} \times \text{(認知症の割合)}$$

全体での構成比を5%以上と5%未満に、認知症の割合を10%以上と10%未満に分けて、入院の契機となった疾患を分類した結果を図表3-3に示す。

図表3-3 疾患の四象限分類（一般病床）

※下線を引いた疾患は、認知症患者での構成比が5%以上の疾患である。

| | | 当該疾患の患者における認知症患者の割合 | |
|-----------------|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 認知症割合 10%未満 | 認知症割合 10%以上 |
| 入院の契機となった疾患別患者数 | 患者構成比5%以上 | <u>新生物 (C、D0-D4)</u> <u>消化器系の疾患 (K)</u> <u>筋骨格系及び結合組織の疾患 (M)</u> <u>損傷、中毒及びその他の外因の影響 (S、T)</u> | <u>神経系の疾患 (G)</u> <u>循環器系の疾患 (I)</u> <u>呼吸器系の疾患 (J)</u> |
| | 患者構成比5%未満 | 眼及び付属器の疾患 (H0-H5) 耳及び乳様突起の疾患 (H6-H9) 腎尿路生殖器系の疾患 (N) 妊娠、分娩及び産じょく (O) 周産期に発生した病態 (P) 先天奇形、変形及び染色体異常 (Q) | 感染症及び寄生虫症 (A、B) 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 (D5-D8) <u>内分泌、栄養及び代謝疾患 (E)</u> 精神及び行動の障害 (F) 皮膚及び皮下組織の疾患 (L) 他に分類されないもの (R) |

同様の分類を、医療療養病床について行ったものを図表 3-4 に、介護療養病床について行ったものを図表 3-5 に示す。

図表 3-4 疾患の四象限分類（医療療養）

※下線を引いた疾患は、認知症患者での構成比が5%以上の疾患である。

| | | 当該疾患の患者における認知症患者の割合 | |
|-----------------|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 認知症割合 10%未満 | 認知症割合 10%以上 |
| 入院の契機となった疾患別患者数 | 患者構成比5%以上 | — 該当なし — | <u>内分泌、栄養及び代謝疾患 (E)</u> <u>神経系の疾患 (G)</u> <u>循環器系の疾患 (I)</u> <u>呼吸器系の疾患 (J)</u> <u>筋骨格系及び結合組織の疾患 (M)</u> 損傷、中毒及びその他の外因の影響 (S、T) |
| | 患者構成比5%未満 | 眼及び付属器の疾患 (H0-H5) 耳及び乳様突起の疾患 (H6-H9) 妊娠、分娩及び産じょく (O) 周産期に発生した病態 (P) 先天奇形、変形及び染色体異常 (Q) | 感染症及び寄生虫症 (A、B) 新生物 (C、D0-D4) 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 (D5-D8) 精神及び行動の障害 (F) <u>消化器系の疾患 (K)</u> 皮膚及び皮下組織の疾患 (L) 腎尿路生殖器系の疾患 (N) 他に分類されないもの (R) |

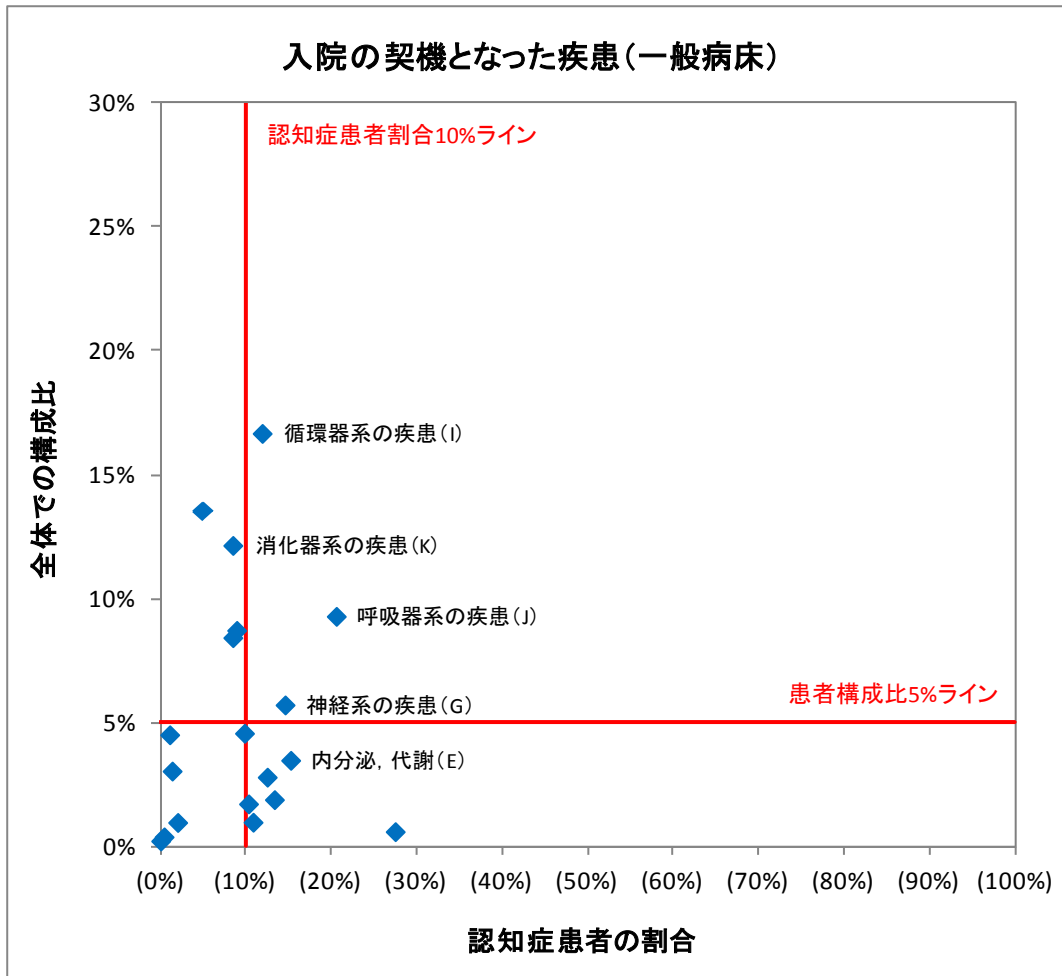
図表 3-5 疾患の四象限分類（介護療養）

※下線を引いた疾患は、認知症患者での構成比が5%以上の疾患である。

| | | 当該疾患の患者における認知症患者の割合 | |
|-----------------|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 認知症割合 10%未満 | 認知症割合 10%以上 |
| 入院の契機となった疾患別患者数 | 患者構成比5%以上 | — 該当なし — | <u>内分泌、栄養及び代謝疾患 (E)</u> <u>神経系の疾患 (G)</u> <u>循環器系の疾患 (I)</u> <u>呼吸器系の疾患 (J)</u> <u>消化器系の疾患 (K)</u> |
| | 患者構成比5%未満 | 眼及び付属器の疾患 (H0-H5) 耳及び乳様突起の疾患 (H6-H9) 妊娠、分娩及び産じょく (O) 周産期に発生した病態 (P) 先天奇形、変形及び染色体異常 (Q) | 感染症及び寄生虫症 (A、B) 新生物 (C、D0-D4) 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 (D5-D8) 精神及び行動の障害 (F) 皮膚及び皮下組織の疾患 (L) 筋骨格系及び結合組織の疾患 (M) 腎尿路生殖器系の疾患 (N) 他に分類されないもの (R) 損傷、中毒及びその他の外因の影響 (S、T) |

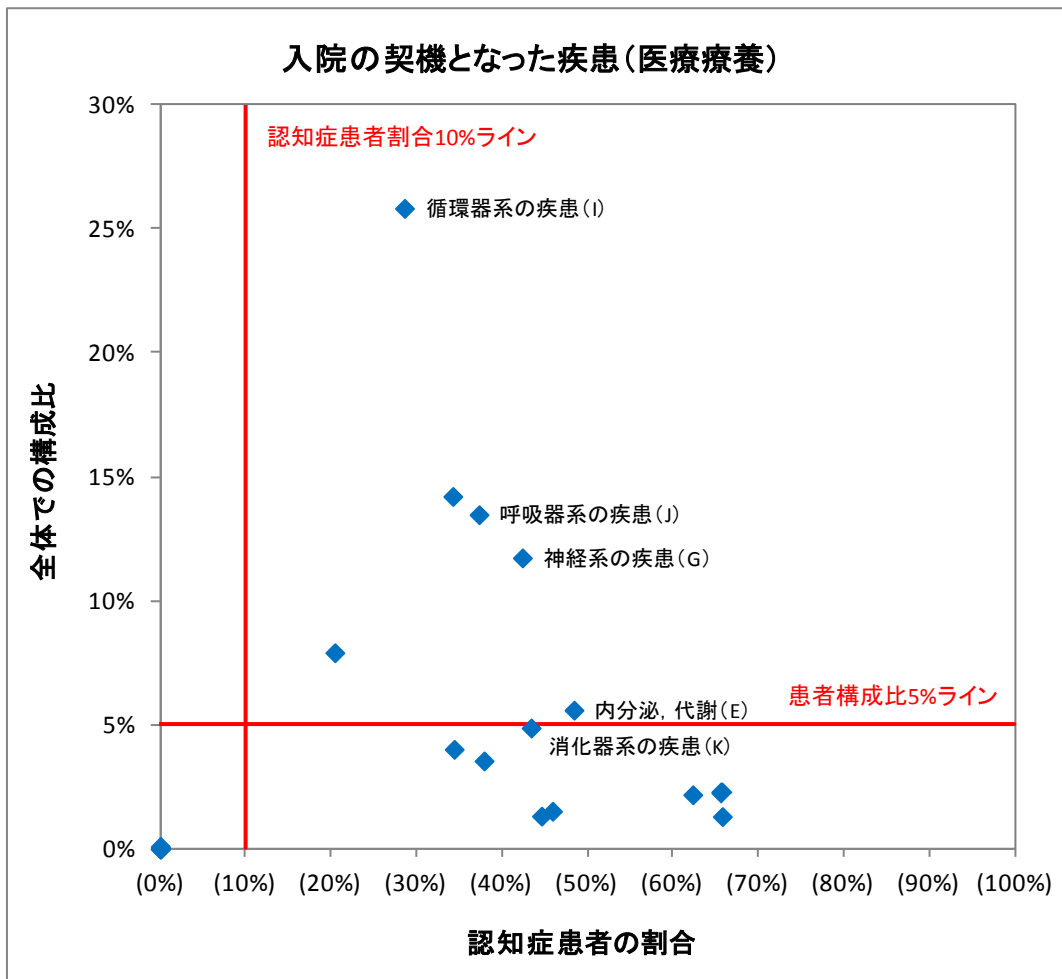
一般病床での四象限分類における各疾患のポジションを図表 3-6 に示す。

図表 3-6 一般病床での四象限分類における各疾患のポジション



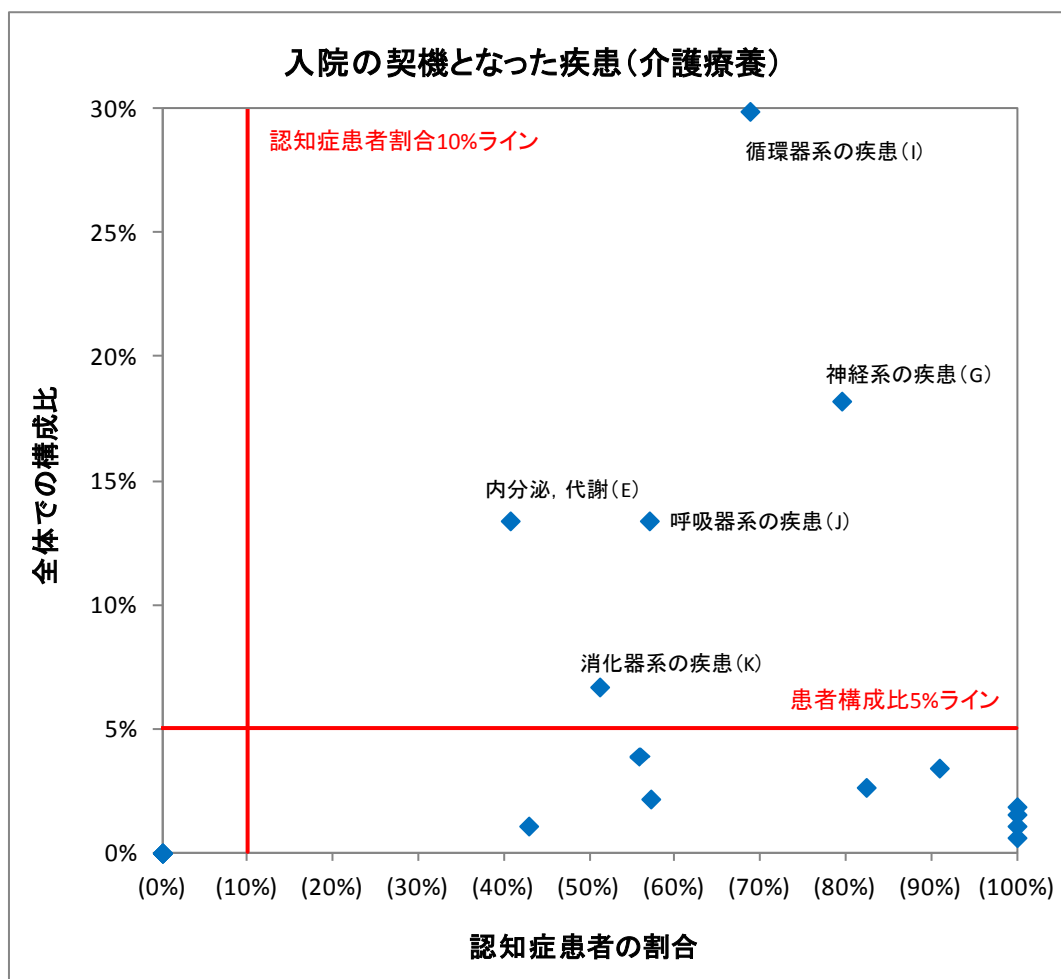
医療療養での四象限分類における各疾患のポジションを図表 3-7 に示す。

図表 3-7 医療療養での四象限分類における各疾患のポジション



介護療養での四象限分類における各疾患のポジションを図表 3-8 に示す。

図表 3-8 介護療養での四象限分類における各疾患のポジション



認知症患者での構成比が 5%以上の疾患を、病床種類別に示したものを図表 3-9 に示す。

図表 3-9 認知症患者での構成比が 5%以上の疾患
※ICD-10 コードの順に並べている。

| | 一般病床 | | |
|-----------------------|----------------|--------------|----------------|
| | 認知症患者 での構成比 | 全患者 での構成比 | 当該疾患の 認知症割合 |
| 新生物(C、D0-D4) | 6.8 % | 13.5 % | (5.1 %) |
| 内分泌、栄養及び代謝疾患(E) | 5.3 % | 3.5 % | (15.2 %) |
| 神経系の疾患(G) | 8.3 % | 5.7 % | (14.6 %) |
| 循環器系の疾患(I) | 19.6 % | 16.7 % | (11.9 %) |
| 呼吸器系の疾患(J) | 19.0 % | 9.3 % | (20.5 %) |
| 消化器系の疾患(K) | 10.2 % | 12.2 % | (8.4 %) |
| 筋骨格系及び結合組織の疾患(M) | 7.7 % | 8.7 % | (8.9 %) |
| 損傷、中毒及びその他の外因の影響(S、T) | 7.1 % | 8.4 % | (8.4 %) |

| | 医療療養 | | |
|------------------|----------------|--------------|----------------|
| | 認知症患者 での構成比 | 全患者 での構成比 | 当該疾患の 認知症割合 |
| 内分泌、栄養及び代謝疾患(E) | 7.4 % | 5.6 % | (48.4 %) |
| 神経系の疾患(G) | 13.7 % | 11.7 % | (42.4 %) |
| 循環器系の疾患(I) | 20.3 % | 25.8 % | (28.6 %) |
| 呼吸器系の疾患(J) | 13.8 % | 13.5 % | (37.3 %) |
| 消化器系の疾患(K) | 5.8 % | 4.9 % | (43.4 %) |
| 筋骨格系及び結合組織の疾患(M) | 13.4 % | 14.2 % | (34.2 %) |

| | 介護療養 | | |
|-----------------|----------------|--------------|----------------|
| | 認知症患者 での構成比 | 全患者 での構成比 | 当該疾患の 認知症割合 |
| 内分泌、栄養及び代謝疾患(E) | 8.2 % | 13.4 % | (40.7 %) |
| 神経系の疾患(G) | 21.7 % | 18.2 % | (79.5 %) |
| 循環器系の疾患(I) | 30.8 % | 29.9 % | (68.8 %) |
| 呼吸器系の疾患(J) | 11.4 % | 13.4 % | (57.0 %) |
| 消化器系の疾患(K) | 5.1 % | 6.7 % | (51.2 %) |

3. 2 入院前の居場所と退院先

入院前の居場所別の新規入院患者の構成比と、退院先別の退院患者の構成比を比較したものを図表 3-10～図表 3-12 に示す。

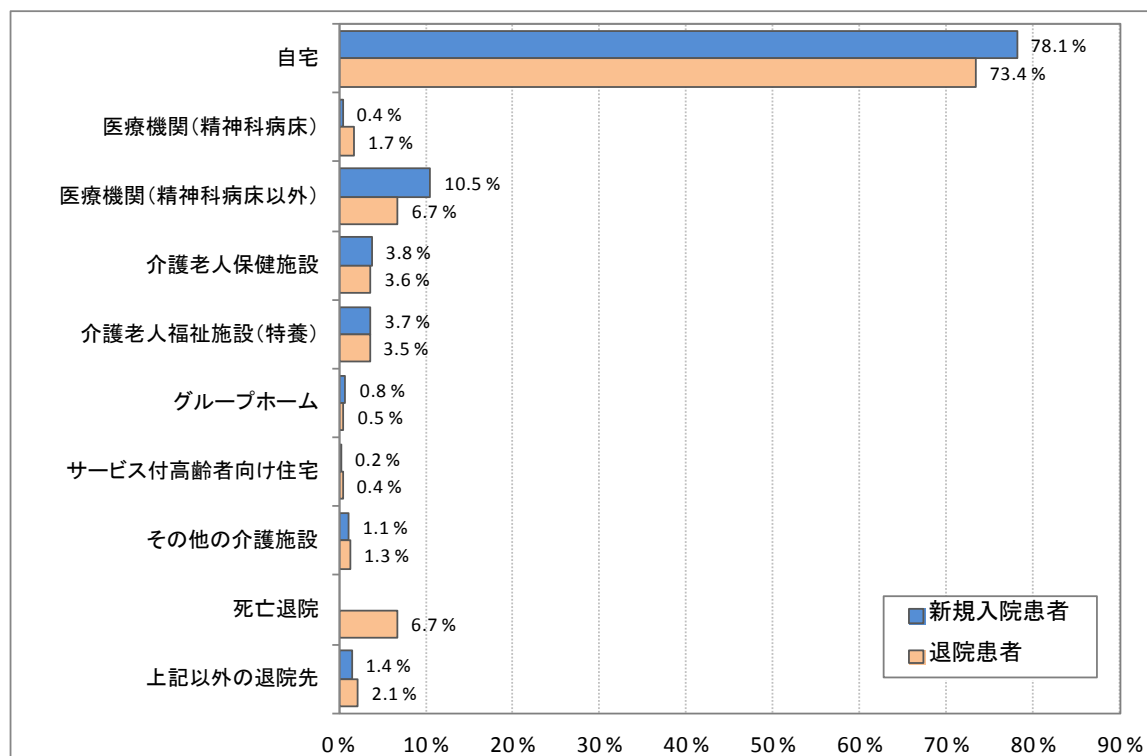
一般病床の患者は、「自宅」からの入院が最も多く、同じく「自宅」への退院が最も多くなっている。

医療療養の患者は、「医療機関（精神科病床以外）」からの入院が最も多く、「自宅」への退院が最も多くなっている。

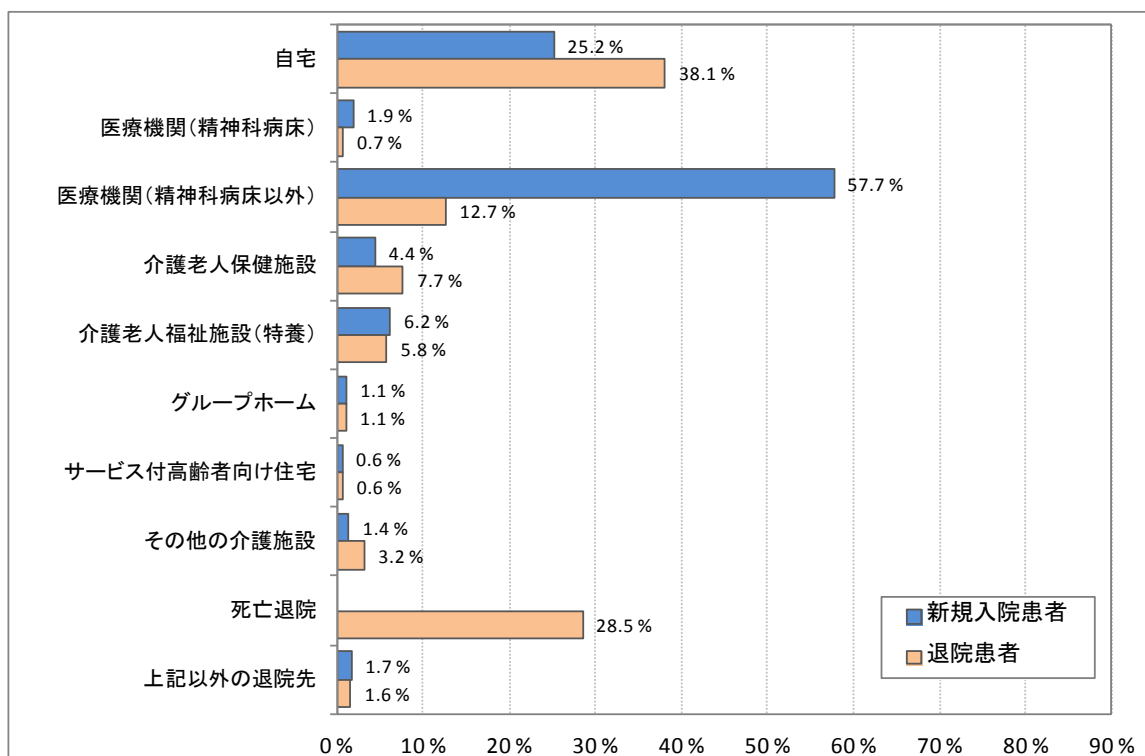
介護療養の患者は、「医療機関（精神科病床以外）」からの入院が最も多く、「死亡退院」が最も多くなっている。次に多いのは「医療機関（精神科病床以外）」への退院であり、「自宅」への退院も 2 割以上となっている。

上記の結果は、それぞれの病床機能が表れている結果といえる。また、いずれの病床種類も在宅復帰機能を有しているといえる。

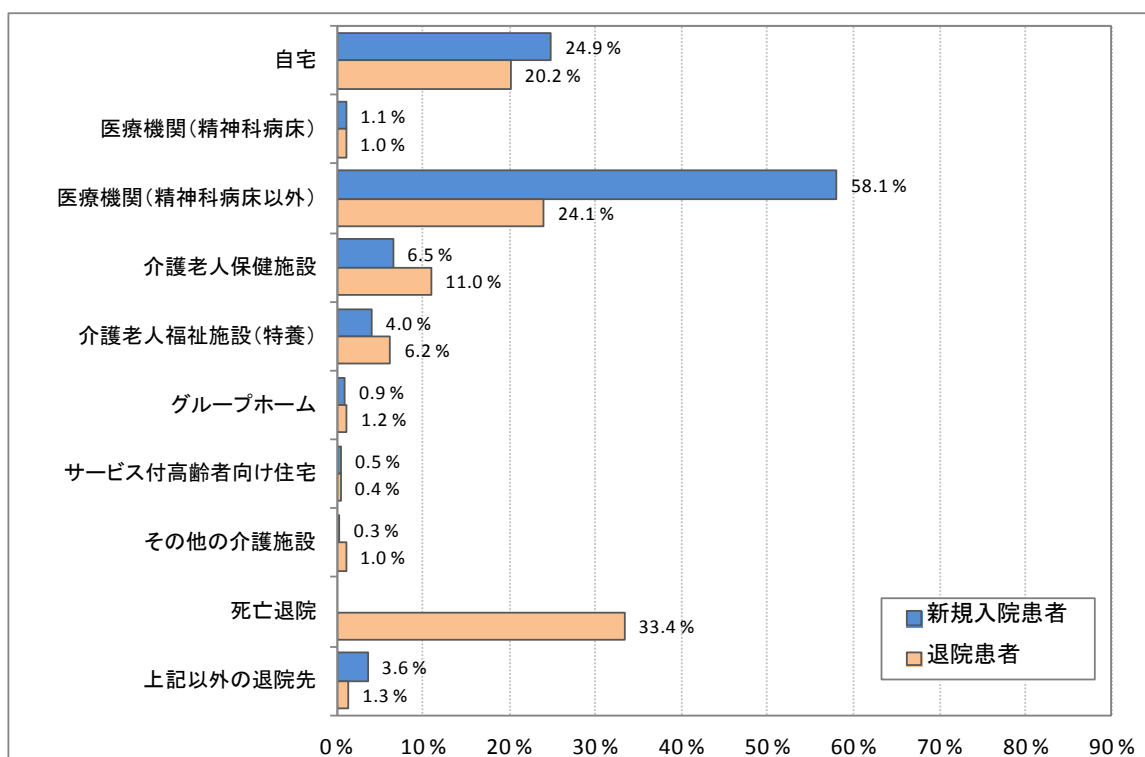
図表 3-10 入院前の居場所別と退院先別の患者構成比（一般病床）：全患者



図表 3-11 入院前の居場所別と退院先別の患者構成比（医療療養）：全患者

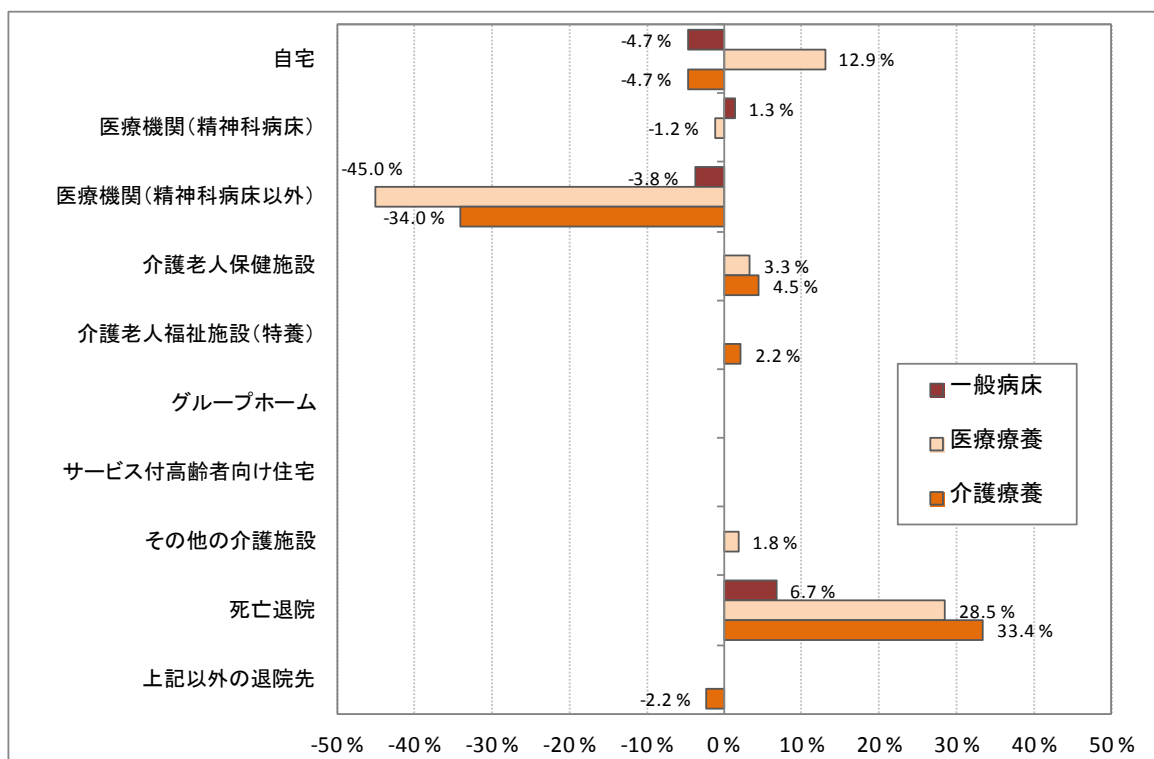


図表 3-12 入院前の居場所別と退院先別の患者構成比（介護療養）：全患者



退院先別の患者構成比と入院前の居場所別の患者構成比の差分（退院の構成比－入院の構成比）を図表 3-13 に示す。患者数で見れば、一般病床と介護療養では「自宅」や「医療機関（精神科病床以外）」から、「介護老人保健施設」や「死亡退院」へ流れている。医療療養では「医療機関（精神科病床以外）」から、「自宅」、「介護老人保健施設」、「死亡退院」へ流れている。

図表 3-13 患者構成比の差分（退院－入院）：全患者
 ※差分が+1%以上もしくは-1%以下の場合のみ表示している。



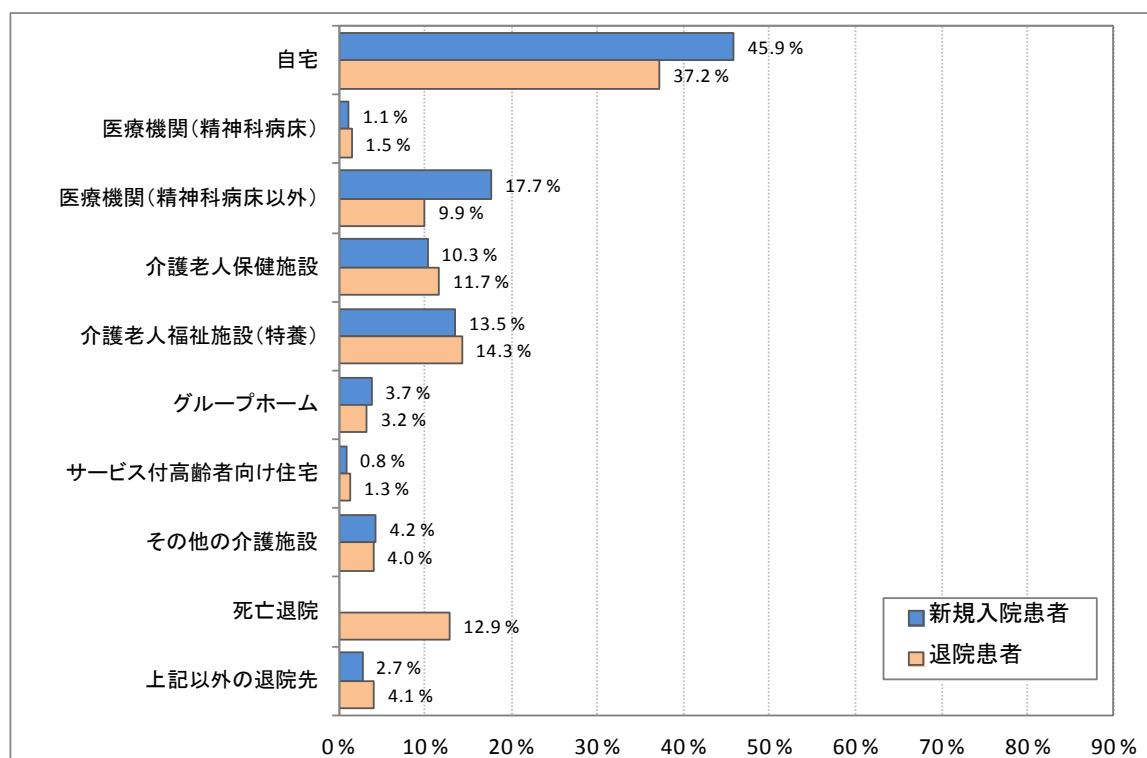
認知症患者について、入院前の居場所別の新規入院患者の構成比、退院先別の退院患者の構成比を比較したものを図表 3-14～図表 3-16 に示す。

一般病床の認知症患者は、「自宅」からの入院が最も多く、「自宅」への退院が最も多くなっている。

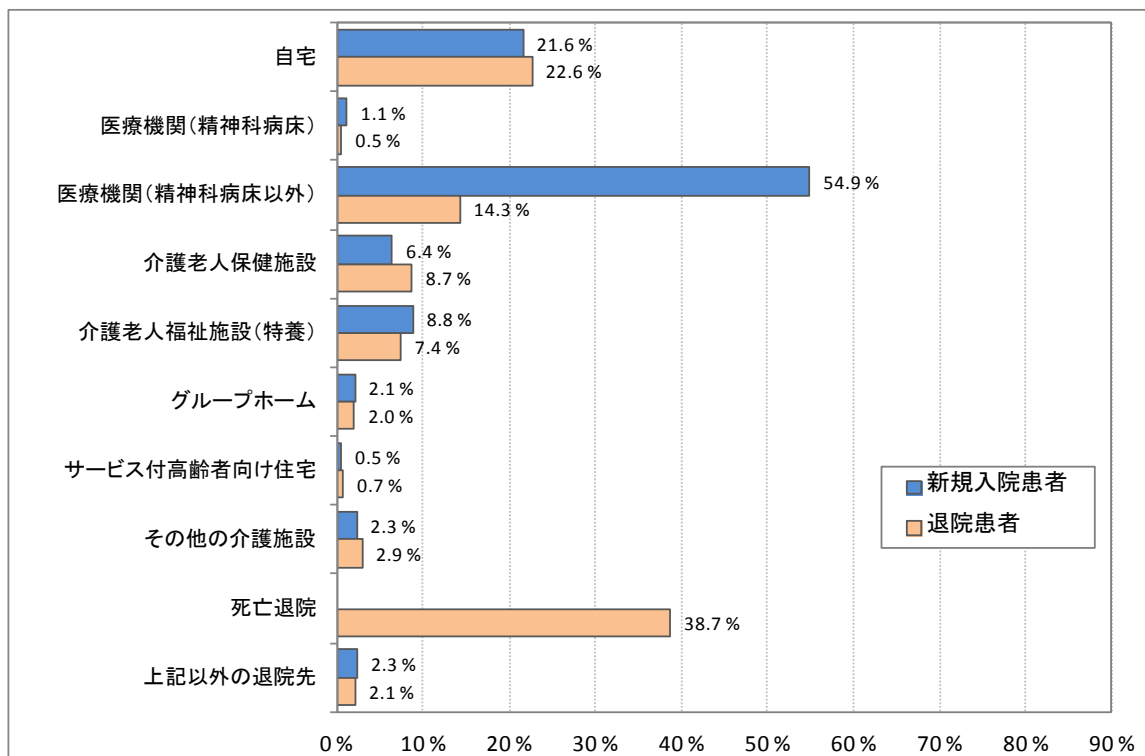
医療療養の認知症患者は、「医療機関（精神科病床以外）」からの入院が最も多く、「死亡退院」が最も多くなっている。次に多いのは「自宅」への退院である。

介護療養の認知症患者は、「医療機関（精神科病床以外）」からの入院が最も多く、「死亡退院」が最も多くなっている。次に多いのは「医療機関（精神科病床以外）」への退院である。

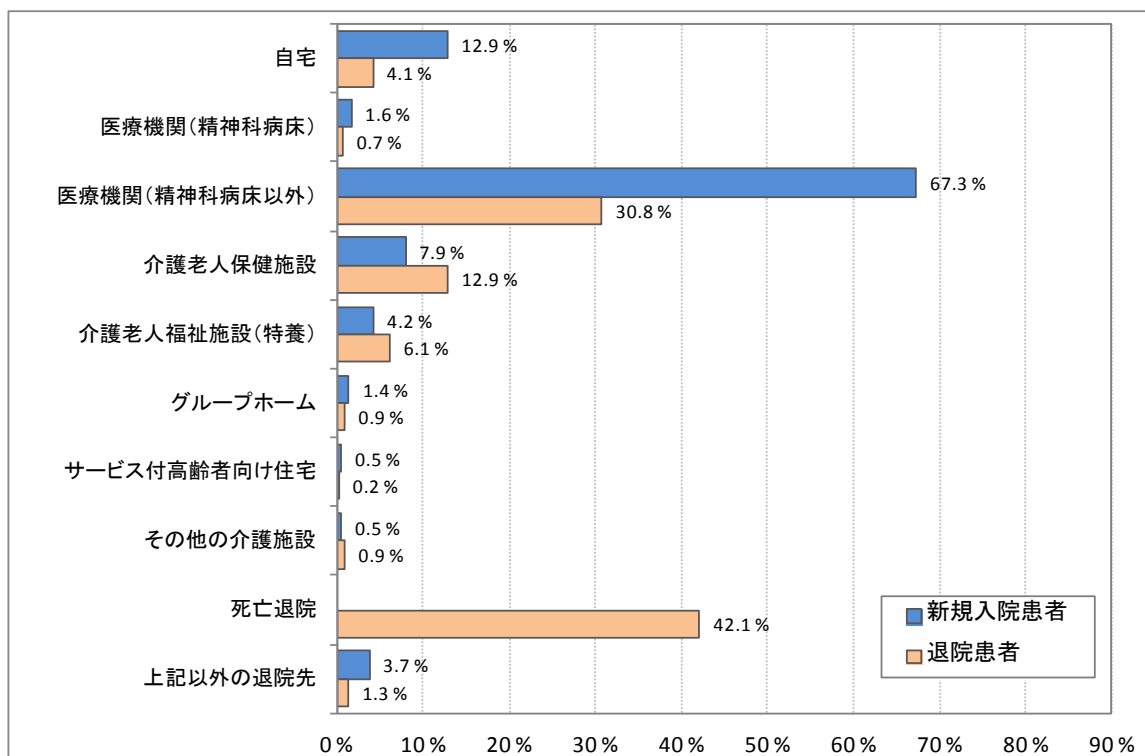
図表 3-14 入院前の居場所別と退院先別の患者構成比（一般病床）：認知症患者



図表 3-15 入院前の居場所別と退院先別の患者構成比（医療療養）：認知症患者



図表 3-16 入院前の居場所別と退院先別の患者構成比（介護療養）：認知症患者

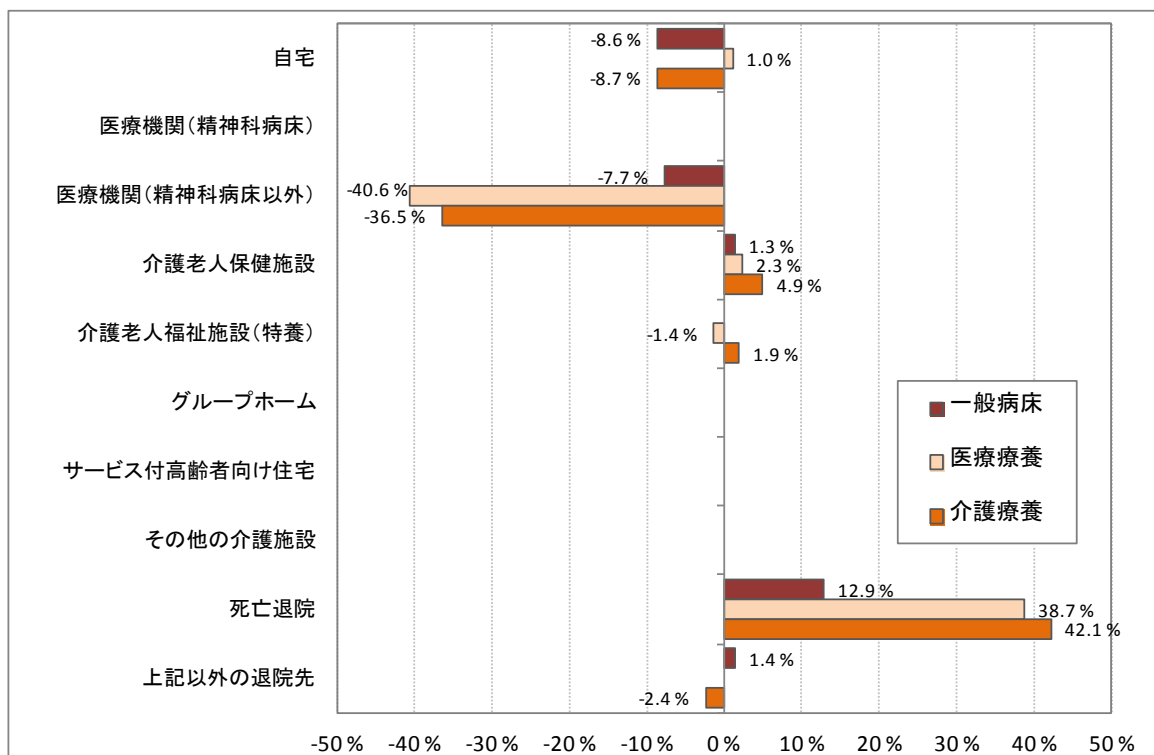


認知症患者についての、退院先別の患者構成比と入院前の居場所別の患者構成比の差分（退院の構成比－入院の構成比）を図表 3-17 に示す。

認知症患者数で見れば、「自宅」や「医療機関（精神科病床以外）」から、「介護老人保健施設」や「死亡退院」へ流れている。

患者全体でみた場合、医療療養での「自宅」の患者構成比の差分（退院－入院）は 12.9%であった(図表 3-13)。一方、認知症患者に限れば 1.0%であり(図表 3-17)、医療療養でも認知症患者の在宅復帰は難しいことが伺える。

図表 3-17 患者構成比の差分（退院－入院）：認知症患者
 ※差分が+1%以上もしくは-1%以下の場合のみ表示している。



3. 3 入院患者の認知症の状況

認知症患者の割合を、新規入院患者（3 か月間）、入院患者（1 時点）、退院患者（3 か月間）で比較したものを図表 3-18 に示す。いずれの病床種類においても、入院患者の認知症患者割合が最も高く、次に退院患者、最も低いのが新規入院患者となっている。このような結果になるのは、入院時は認知症の判定が十分ではないのかもしれない。また、入院による環境変化や病状進行で認知症が進行するのかもしれない。

図表 3-18 認知症患者割合の比較

| | 認知症患者の割合 | | |
|---------------|----------|-------|-------|
| | 一般病床 | 医療療養 | 介護療養 |
| 新規入院患者（3 か月間） | 10.1% | 36.4% | 66.7% |
| 入院患者（1 時点） | 15.1% | 43.3% | 71.0% |
| 退院患者（3 か月間） | 10.5% | 39.1% | 68.1% |

入院時の認知症の有無別の患者構成比、及び入院中に認知症と判明した患者構成比を図表 3-19 に示す。入院時に認知症と判明している患者に、入院時は不明であったが入院中に認知症と判明した患者を加えた構成比は、退院患者における認知症患者の割合を上回っている。この比較結果から、入院患者での認知症患者の割合が最も高くなっていることを説明できると考えられる。

図表 3-19 認知症の有無及び判明時期別の新規入院患者の構成比

| | 新規入院患者の構成比 | | |
|--------------|------------|-------|-------|
| | 一般病床 | 医療療養 | 介護療養 |
| ①入院時に認知症と判明 | 10.1% | 36.4% | 66.7% |
| ②入院時に非認知症と判明 | 42.9% | 44.1% | 19.6% |
| ③入院時は不明 | 47.0% | 19.5% | 13.7% |
| ④入院中に認知症と判明 | 2.1% | 3.6% | 2.6% |
| ⑤=①+④ | 12.2% | 40.0% | 69.3% |

入院患者での認知症患者の割合は、一般病床で 15.1%、医療療養で 43.3%、介護療養で 71.0%であった（図表 3-18）。認知症患者における BPSD 対応が必要な患者の割合を図表 3-20 に示す。

認知症患者における BPSD 対応が必要な患者の割合は、一般病床で 22.9%、医療療養で 11.6%、介護療養で 11.4%であった。医療療養と介護療養での BPSD 対応が必要な患者割合はほぼ同程度であり、一般病床では療養病床の約 2 倍の患者割合となっている。

また、BPSD 対応が必要な患者において、精神科病院への転院を考えている患者の割合は、一般病床で 1.7%、医療療養で 1.8%、介護療養で 2.5%であり、いずれの病床種類でも 2%前後という結果であった。

図表 3-20 認知症患者における BPSD 対応が必要な患者の割合

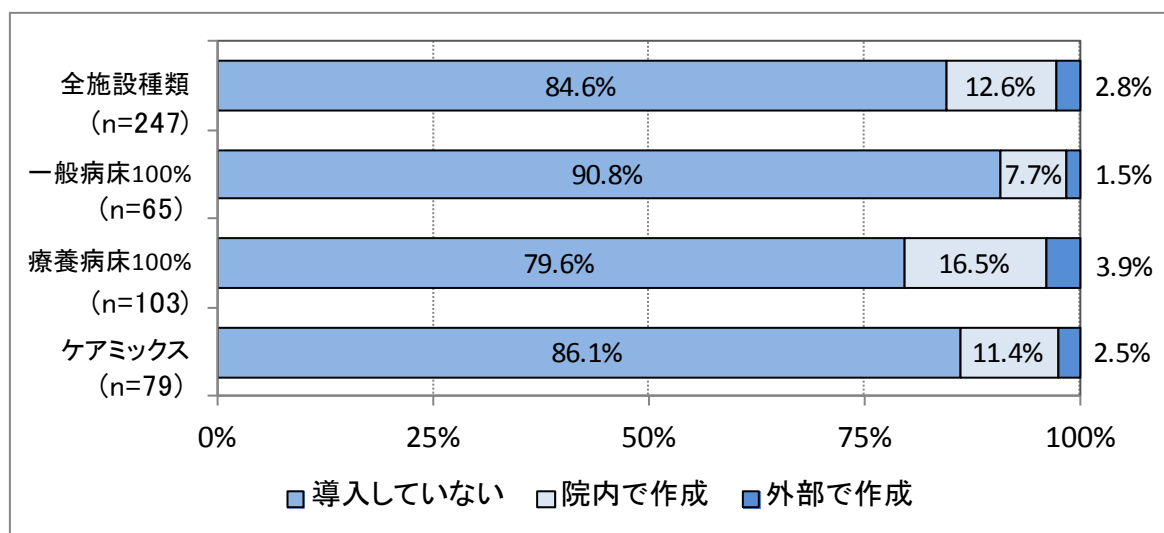
| | 該当患者の割合 | | |
|------------------------------------|---------|-------|-------|
| | 一般病床 | 医療療養 | 介護療養 |
| 認知症患者における BPSD 対応が必要な患者 | 22.9% | 11.6% | 11.4% |
| BPSD 対応が必要な患者において精神科病院への転院を考えている患者 | 1.7% | 1.8% | 2.5% |

4. 認知症・BPSD への対応状況

施設調査票における認知症・BPSD への対応状況に係る設問、及び患者調査の補助票を集計した結果を以下に示す。

認知症患者の BPSD 対応マニュアルの導入状況を図表 4-1 に示す。マニュアルをすでに導入している病院は約 15%にとどまった。一方、BPSD 対応が必要でケアの負担感が大きい事例があるとした病院は約 53%であった（図表 4-2）。

図表 4-1 BPSD 対応マニュアルの導入状況



※「全施設種類」とは、一般病床・療養病床を有する病院（全体）のことであり、「一般病床 100%」、「療養病床 100%」、及び「ケアミックス」をあわせた集計結果である（以下、同様）。

図表 4-2 BPSD 対応の事例数別の施設割合

| | 全施設種類 |
|-----------------|--------|
| 該当事例なし | 46.8 % |
| 該当事例あり | 53.2 % |
| （うち）100床当たり5件以下 | 30.6 % |
| （うち）100床当たり5件超 | 22.6 % |

認知症ケアパスへの取り組み状況を図表 4-3 に示す。すでに、認知症ケアパスを院内で運用している病院はわずか 1.3%であり、運用へ向けて準備中の病院を含めても 3.1%にとどまった。

図表 4-3 認知症ケアパスへの取り組み状況

| | 一般病床100% | 療養病床100% | ケアミックス | 全施設種類 |
|----------------------|----------|----------|--------|--------|
| 認知症ケアパスがあり院内で運用している | — | 1.0 % | 2.9 % | 1.3 % |
| 認知症ケアパスがあり運用に向けた準備中 | 1.8 % | 2.0 % | 1.4 % | 1.8 % |
| 認知症ケアパスはあるが運用は考えていない | 1.8 % | 6.1 % | 1.4 % | 3.5 % |
| 認知症ケアパスを開発中である | 3.5 % | 1.0 % | 2.9 % | 2.2 % |
| 研究会等への参加を検討している | 54.4 % | 48.5 % | 50.0 % | 50.4 % |
| その他 | 38.6 % | 41.4 % | 41.4 % | 40.7 % |

自院で対応困難な認知症・BPSD に対応できる医療機関の把握状況を図表 4-4 に示す。対応できる医療機関を把握していて、その医療機関と連携している病院が 5 割を超えているものの、把握しているにも係らず連携できていない病院が 4 割程度あることが分かった。

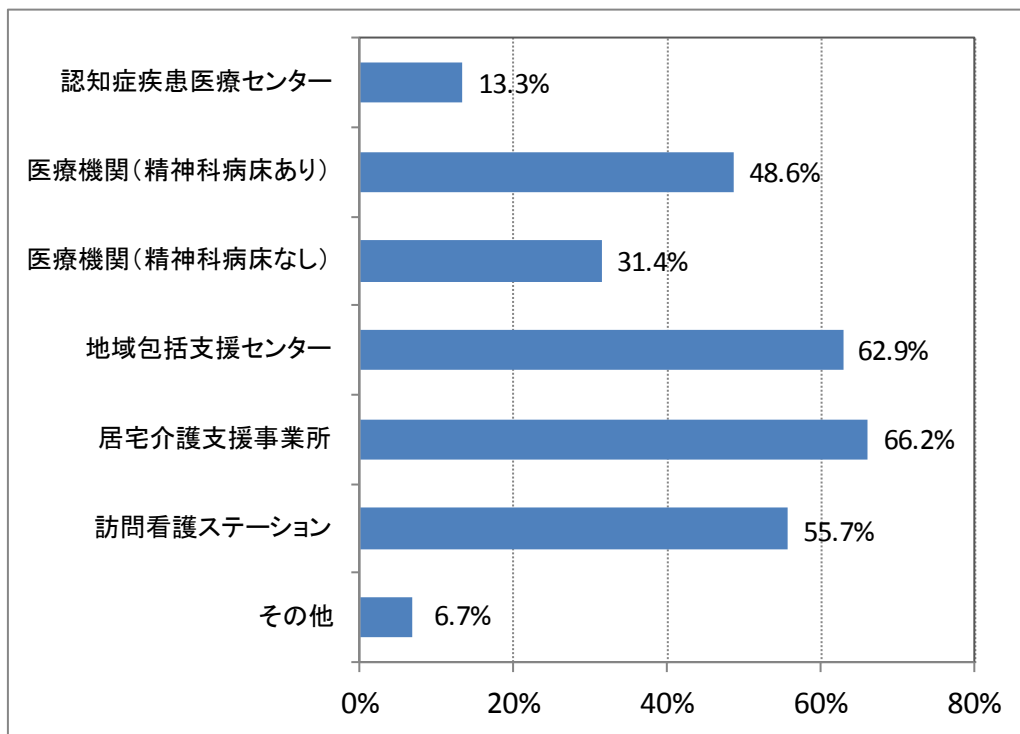
図表 4-4 自院で対応困難な認知症・BPSD に対応できる医療機関の把握状況

| | 一般病床100% | 療養病床100% | ケアミックス | 全施設種類 |
|-------------------------|----------|----------|--------|--------|
| 把握していて、その医療機関と提携している | 54.5 % | 55.3 % | 50.6 % | 53.6 % |
| 把握しているが、その医療機関と提携できていない | 37.9 % | 37.9 % | 47.0 % | 40.9 % |
| 対応できる医療機関を把握していない | 7.6 % | 6.8 % | 2.4 % | 5.6 % |

在宅の認知症患者への支援における連携先の状況を図表 4-5 に示す。連携先としては、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、訪問看護ステーションの割合が高くなっている。次いで高いのが、医療機関（精神科病床あり）の約 49%であった。

認知症疾患医療センターは全国に 146 か所（H24.2.1 時点）であるが、連携していると回答した施設は約 13%であった。地域における認知症医療の中核的な機関であるべき認知症疾患医療センターとの連携は、十分には機能しているとはいえない。さらなる連携を進めることが必要といえる。

図表 4-5 在宅の認知症患者への支援における連携先の状況



5. 認知症患者の BPSD の事例

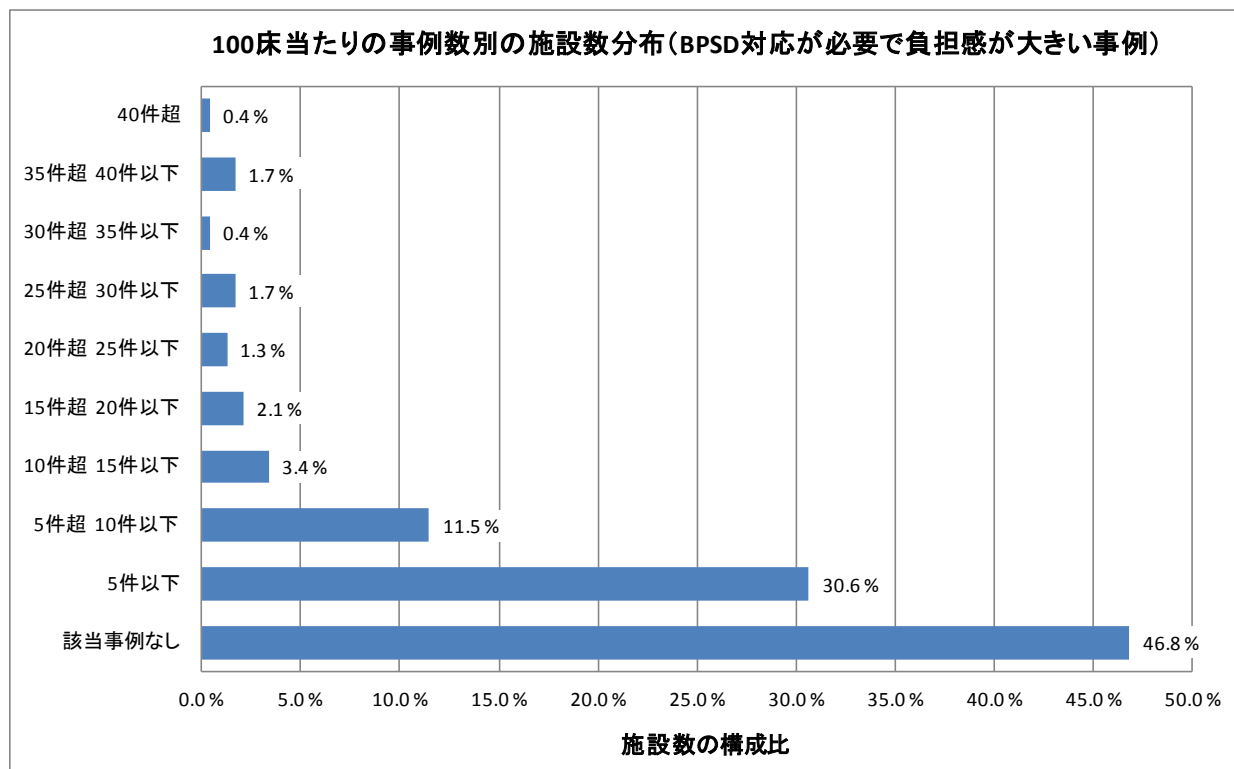
患者調査票の設問への回答内容を集計・分析した結果を以下に示す。

5. 1 当該事例数別の施設数分布

患者調査の対象者は、「BPSD 対応が必要でケアの負担感が大きい事例」あるいは「精神科病院へ転院した事例」のいずれかに該当する入院患者とした。100 床当たり事例数別の施設数分布を、図表 5-1 と図表 5-2 に示す。

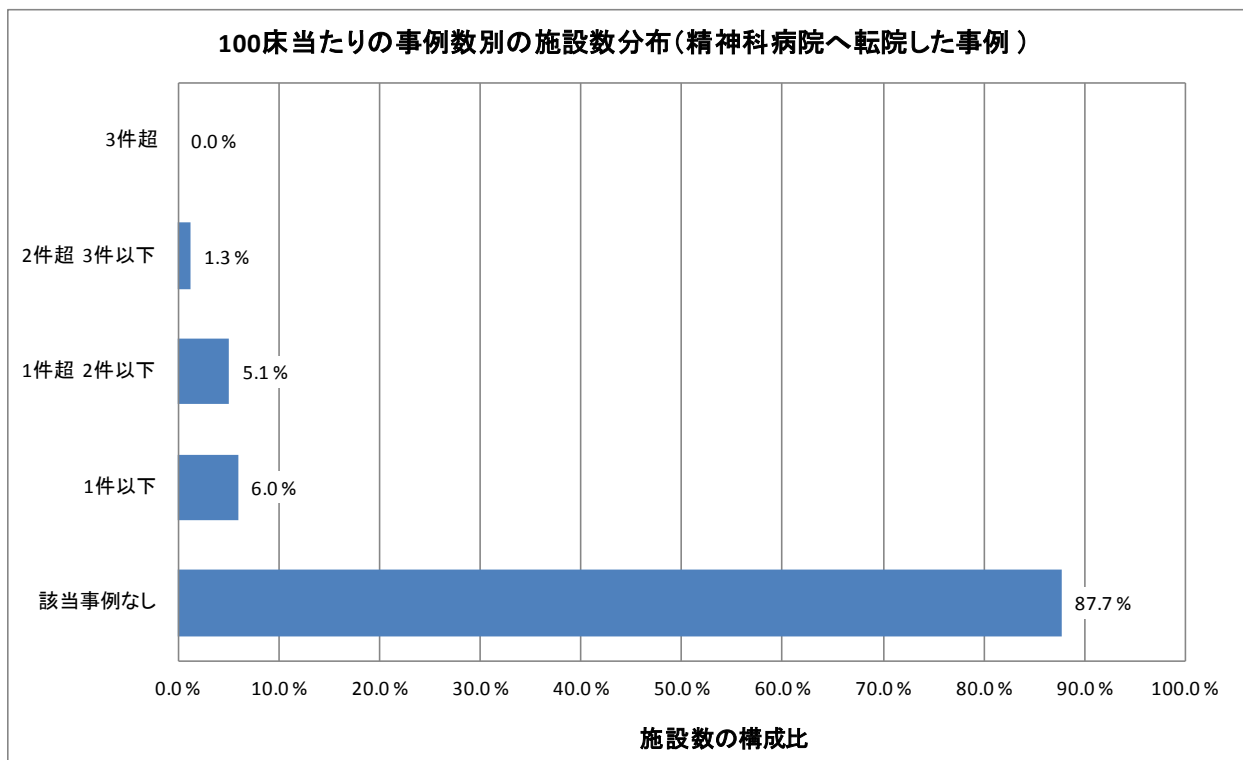
BPSD 対応の事例（平成 25 年 7 月～9 月の 3 か月間）では、該当事例なしが約 47%で、半数以上の病院において「BPSD 対応が必要でケアの負担感が大きい事例」に該当する入院患者がいることが分かった。事例がある場合では、100 床当たり 20 件を超える病院は 5.5%もありケアの負担感が大きいことが伺える。一方、5 件以下の割合は約 31%となっている。

図表 5-1 BPSD 対応が必要でケアの負担感が大きい事例数別の施設数分布



精神科病院への転院の事例（平成 25 年 7 月～9 月の 3 か月間）では、該当事例なしが約 88%であった。事例がある場合でも、100 床当たりの事例数は 3 件以下である。一般病床・療養病床を有する病院から精神科病院へ転院することは稀であることが分かった。転院をスムーズに行うためには、病院間の連携、情報交換、信頼が必要と考える。

図表 5-2 精神科病院へ転院した事例数別の施設数分布



5. 2 BPSD の程度とケアの負担感

BPSD の症状の重症度と、当該症状について介護者が感じている負担度の相関係数を図表 5-3 に示す。同じ BPSD の症状の重症度とケアの負担度の間に強い正の相関関係がみられる。したがって、症状の重症度が高ければケアの負担度も高くなるといえる。

図表 5-3 BPSD の重症度とケアの負担度の相関係数

| | | BPSD症状の重症度 | | | | | | | | | | |
|--------|--------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | | 妄想 | 幻覚 | 興奮 | うつ | 不安 | 多幸 | 無関心 | 脱抑制 | 易怒性 | 異常行動 | 重症度の合計 |
| ケアの負担度 | 妄想 | 0.929 | 0.373 | 0.313 | 0.291 | 0.208 | 0.260 | 0.141 | 0.274 | 0.330 | 0.279 | 0.607 |
| | 幻覚 | 0.377 | 0.911 | 0.209 | 0.301 | 0.225 | 0.240 | 0.204 | 0.215 | 0.160 | 0.223 | 0.543 |
| | 興奮 | 0.288 | 0.213 | 0.918 | 0.159 | 0.177 | 0.234 | 0.253 | 0.339 | 0.531 | 0.246 | 0.615 |
| | うつ | 0.265 | 0.258 | 0.162 | 0.917 | 0.350 | 0.280 | 0.176 | 0.203 | 0.135 | 0.131 | 0.490 |
| | 不安 | 0.180 | 0.191 | 0.161 | 0.367 | 0.956 | 0.183 | 0.121 | 0.174 | 0.248 | 0.092 | 0.462 |
| | 多幸 | 0.264 | 0.246 | 0.224 | 0.292 | 0.246 | 0.852 | 0.293 | 0.290 | 0.231 | 0.197 | 0.543 |
| | 無関心 | 0.124 | 0.203 | 0.245 | 0.194 | 0.167 | 0.229 | 0.875 | 0.222 | 0.184 | 0.191 | 0.482 |
| | 脱抑制 | 0.267 | 0.199 | 0.339 | 0.212 | 0.193 | 0.275 | 0.197 | 0.934 | 0.437 | 0.266 | 0.602 |
| | 易怒性 | 0.301 | 0.155 | 0.552 | 0.142 | 0.266 | 0.187 | 0.168 | 0.402 | 0.955 | 0.179 | 0.613 |
| | 異常行動 | 0.277 | 0.163 | 0.213 | 0.155 | 0.083 | 0.200 | 0.183 | 0.260 | 0.181 | 0.940 | 0.487 |
| | 負担度の合計 | 0.561 | 0.488 | 0.592 | 0.492 | 0.477 | 0.477 | 0.448 | 0.574 | 0.606 | 0.482 | 0.933 |

強い相関がみられたので、「重症度の合計」を横軸、「負担度の合計」を縦軸として回帰直線を推計した結果を図表 5-4 に示す。

図表 5-4 重症度の合計と負担度の合計の回帰直線

| | |
|----------------|-------|
| R ² | 0.955 |
| 標準誤差 | 3.066 |
| 観測数 | 535 |

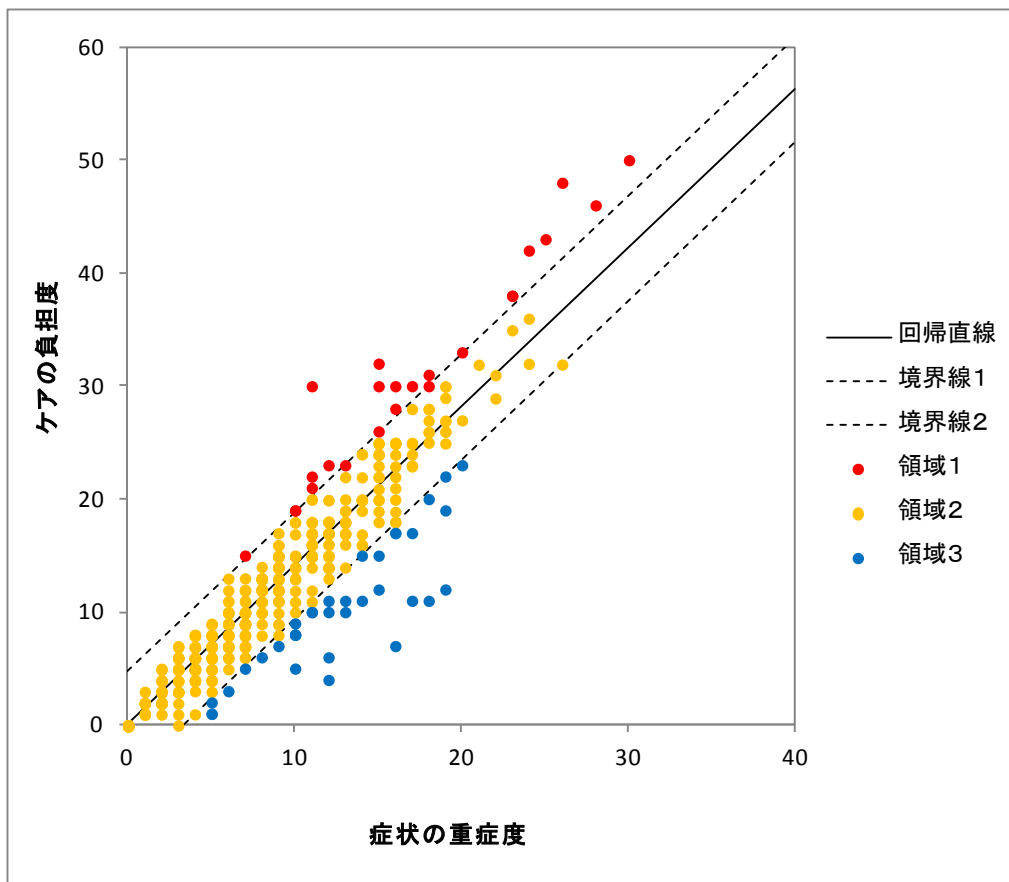
| | 係数 | 標準誤差 | t | P-値 |
|----|-------|-------|-------|-------|
| 切片 | 0.000 | — | — | — |
| 傾き | 1.405 | 0.013 | 107.0 | 0.000 |

《回帰直線との距離》

| | |
|------|-------|
| 平均値 | 1.157 |
| 最大値 | 8.975 |
| 最小値 | 0.000 |
| 標準偏差 | 1.349 |

回帰直線から $\pm 2\sigma$ （標準偏差の2倍）離れた平行線を境界線として、領域を3つに区分し、各事例の「重症度の合計」と「負担度の合計」をプロットしたものを図表5-5に示す。

図表 5-5 事例の重症度と負担度の分布



境界線1の上側が領域1、境界線1と境界線2の間が領域2、境界線2の下側が領域3であり、領域1に属する事例を赤色、領域2に属する事例を黄色、領域3に属する事例を青色で塗り分けた。

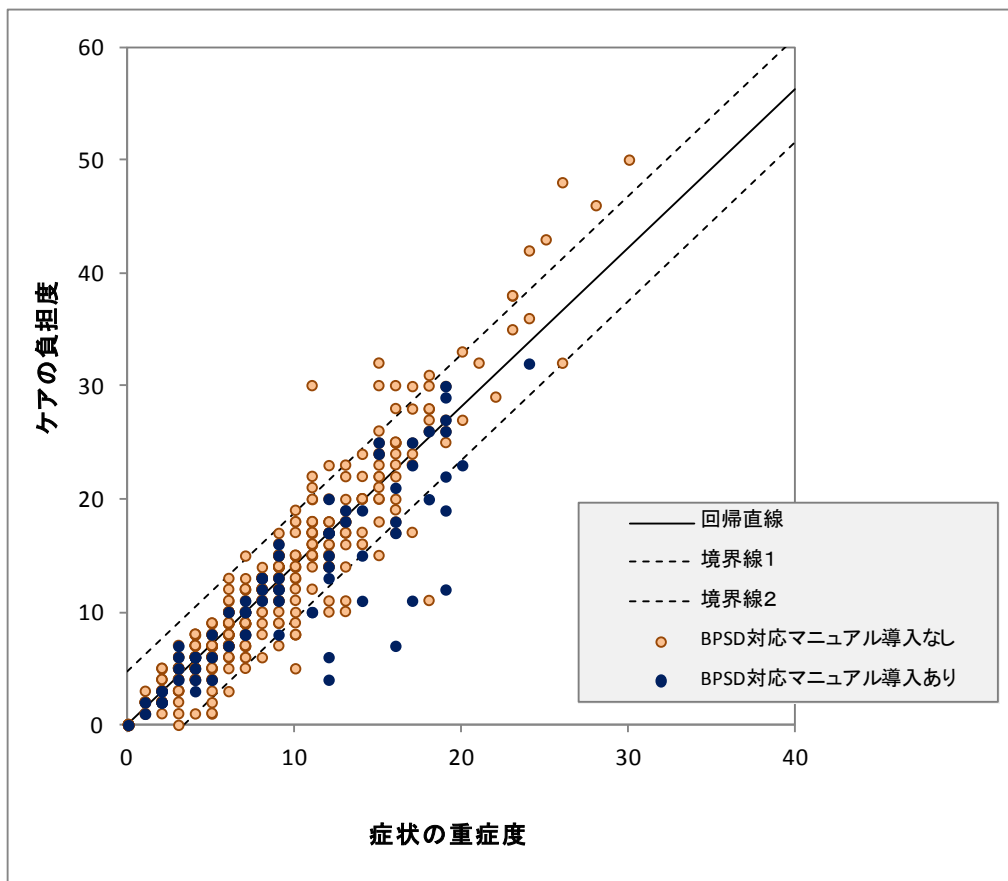
回帰直線に沿って分布しているのが領域2に属する事例（黄色）であり、89%の事例が属している。重症度に比して負担度が大きいのが領域1に属する事例（赤色）である。重症度に比して負担度が小さいのが領域3に属する事例（青色）である。

赤色の事例は概ね重症度が10以上で出現し、青色の事例は概ね重症度が20以下で出現することがみてとれる。

BPSD 対応マニュアル導入の有無で区分し、各事例の「重症度の合計」と「負担度の合計」をプロットしたものを図表 5-6 に示す。BPSD 対応マニュアル導入あり（紺色）の事例は、回帰直線に沿った領域もしくは重症度に比して負担度が小さい領域に属していることがみてとれる。

マニュアル導入の有無で回帰直線の傾きが異なると仮定した重回帰分析の結果を図表 5-7 に示す。 α_0 がマニュアルを導入していない群での傾きを、 α_1 が導入した群での傾きの変動を表している。2 群での傾きの差 α_1 の P 値は極めて小さく、統計的に有意な結果となった。※マニュアルを導入した群での傾きは、 $\alpha = \alpha_0 + \alpha_1$ で与えられる。

図表 5-6 BPSD 対応マニュアル導入の有無別の重症度と負担度の分布



図表 5-7 マニュアルの導入の有無で傾きが異なると仮定した重回帰分析

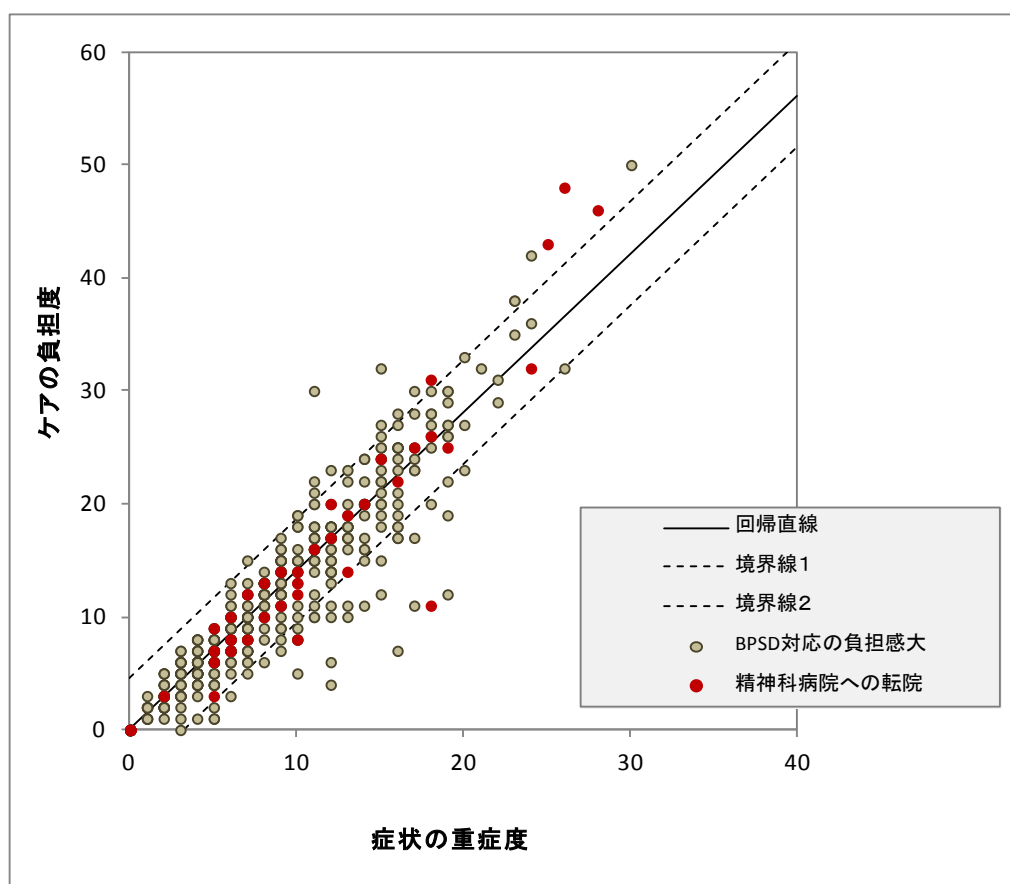
| | |
|----------------|-------|
| R ² | 0.959 |
| 標準誤差 | 3.040 |
| 観測数 | 507 |

| | 係数 | 標準誤差 | t | P-値 |
|------------|--------|-------|-------|-------|
| 切片 | 0.000 | — | — | — |
| α_0 | 1.448 | 0.014 | 100.3 | 0.000 |
| α_1 | -0.221 | 0.032 | -6.9 | 0.000 |

また、事例を「BPSD 対応が必要でケアの負担感が大きい事例」、「精神科病院へ転院した事例」の調査対象区分別に分布を示したものを図表 5-8 に示す。

BPSD の重症度と負担度からは、両事例での顕著な傾向の違いはみられなかった。

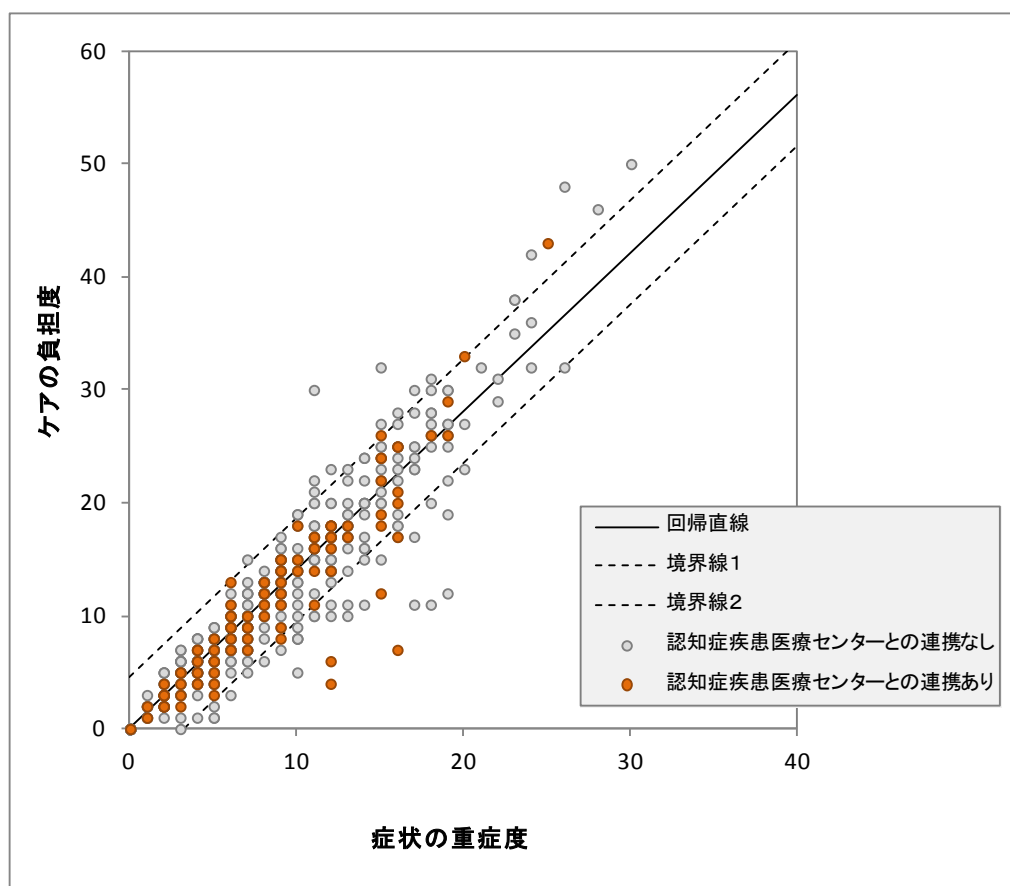
図表 5-8 調査対象区分別の重症度と負担度の分布



在宅の認知症患者への支援における認知症疾患医療センターとの連携の有無別に分布を示したものを図表 5-9 に示す。

BPSD の重症度と負担度からは、2 群の間に顕著な傾向の違いはみれなかった。

図表 5-9 認知症疾患医療センターとの連携の有無別の重症度と負担度の分布



5. 3 精神科病院へ転院した事例の検討

患者調査票の設問への回答の傾向を、「精神科病院へ転院した事例」と「BPSD 対応が必要でケアの負担感が大きい事例」で比較して検討を行った。

<比較の概要>

・回答項目に該当する事例の構成比の差の大きさ（絶対値）で、設問への回答の傾向をみる。（構成比＝当該回答項目に該当する事例数／当該設問の未回答を除く有効回答数）

（注）「資料，全項目の集計結果」では、未回答の事例数を表示し、未回答を含めた有効回答数で構成比を算出している。

・構成比の差の大きさ（絶対値）が、5ポイント以上10ポイント未満を“■”、10ポイント以上15ポイント未満を“■■”、同様に差が5ポイント増すごとに“■”を1つ追加して表示する。

性別の構成比の比較結果を図表5-10、年齢階級別の比較結果を図表5-11に示す。年齢階級別の比較結果をみると、若年の患者「65歳未満」の割合が9ポイント程度高くなっているが、高齢者の「75歳以上85歳未満」では21ポイント程度も高くなっている。精神科病院へ転院する患者の8割程度が75歳以上であり、後期高齢者の割合が高いことが分かる。

図表5-10 性別の構成比の比較結果

| | BPSD対応の負担感大 | 精神科病院へ転院 | |
|----|-------------|----------|---|
| 男性 | 41.3 % | 47.7 % | ■ |
| 女性 | 58.7 % | 52.3 % | ■ |

図表5-11 年齢階級別の構成比の比較結果

| | BPSD対応の負担感大 | 精神科病院へ転院 | |
|-------------|-------------|----------|-------|
| 65歳未満 | 3.0 % | 11.6 % | ■ |
| 65歳以上 75歳未満 | 8.4 % | 4.7 % | |
| 75歳以上 85歳未満 | 37.6 % | 58.1 % | ■■■■■ |
| 85歳以上 95歳未満 | 43.0 % | 25.6 % | ■■■ |
| 95歳以上 | 8.0 % | 0.0 % | ■ |

入院前の居場所別の構成比の比較結果を図表 5-12、入院前のかかりつけ医の状況別の比較結果を図表 5-13 に示す。

精神科病院へ転院した事例の方が「自宅で独居」の構成比が 16 ポイント程度高くなっている。「医療機関」の構成比は▲10 ポイント程度となっている。

また、入院前のかかりつけ医については、精神科病院へ転院した事例の方が「精神科」の構成比が 28 ポイント程度高くなっている。したがって、「精神科以外」の構成比は▲28 ポイント程度となっている。

図表 5-12 入院前の居場所別の構成比の比較結果

| | BPSD対応の負担感大 | 精神科病院へ転院 | |
|----------|-------------|----------|---------|
| 自宅で独居 | 10.6 % | 26.9 % | ■ ■ ■ ■ |
| 自宅で同居者あり | 46.5 % | 38.5 % | ■ |
| 医療機関 | 21.6 % | 11.5 % | ■ ■ |
| 介護保険施設 | 11.7 % | 15.4 % | |
| その他の居所 | 9.6 % | 7.7 % | |

図表 5-13 入院前のかかりつけ医の状況別の構成比の比較結果

| | BPSD対応の負担感大 | 精神科病院へ転院 | |
|----------------|-------------|----------|-----------------|
| 精神科 | 8.5 % | 36.4 % | ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ |
| 精神科以外 | 60.2 % | 31.8 % | ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ |
| 入院前のかかりつけ医はいない | 15.7 % | 18.2 % | |

入院前に利用していた主なサービス別の比較結果を図表 5-14 に示す。

入院前に利用していた主なサービスについては、精神科病院へ転院した事例の方が「一般科外来診療」の構成比は▲14 ポイントに対して、「精神科外来診療」は 5 ポイント程度高くなっている。「医療保険の利用無し」は 19 ポイント程度高くなっている。介護保険については、「居宅」で▲21 ポイント程度、「施設」で▲16 ポイント程度であり、「介護保険の利用無し」では 32 ポイント程度高くなっている。

図表 5-14 入院前に利用していた主なサービス別の構成比の比較結果

| | | BPSD対応の負担感大 | 精神科病院へ転院 | |
|------------------|-------------|-------------|----------|---------|
| 医療 保 険 | 一般科外来診療 | 52.2 % | 38.6 % | ■■ |
| | 一般科訪問診療 | 5.1 % | 2.3 % | |
| | 精神科外来診療 | 3.7 % | 9.1 % | ■ |
| | 精神科訪問診療 | 0.2 % | 0.0 % | |
| | 認知症デイケア等 | 5.3 % | 0.0 % | ■ |
| | 精神科デイケア | 0.0 % | 0.0 % | |
| | 精神科訪問看護(病院) | 0.0 % | 0.0 % | |
| | 訪問看護ステーション | 2.8 % | 2.3 % | |
| | その他医療保険 | 5.7 % | 11.4 % | ■ |
| | 医療保険の利用無し | 15.6 % | 34.1 % | ■■■ |
| 介 護 保 険 | 介護予防 | 5.7 % | 0.0 % | ■ |
| | 居宅 | 30.1 % | 9.1 % | ■■■■■ |
| | 施設 | 20.1 % | 4.5 % | ■■■ |
| | 地域密着型 | 2.6 % | 2.3 % | |
| | その他介護給付 | 2.2 % | 2.3 % | |
| | 介護保険の利用無し | 29.9 % | 61.4 % | ■■■■■■■ |

入院の契機となった疾患別の構成比の比較結果を図表 5-15 に示す。

精神科病院へ転院した事例の方が「精神及び行動の障害 (F)」の構成比は 10 ポイント程度高くなっている。一方、本調査研究の対象としている一般病床・療養病床を有する病院で、患者構成比と認知症患者割合がともに高い疾患(参照: 第3. 1 節)「循環器系の疾患 (I)」で▲11 ポイント程度、「呼吸器系の疾患 (J)」で▲15 ポイント程度となっている。

このことから、「循環器系の疾患（I）」あるいは「呼吸器系の疾患（J）」が増悪したため入院を要する患者に認知症が併存する場合は、精神科病院よりも一般病床・療養病床を有する病院で受け入れるケースが多いことが伺える。

図表 5-15 入院の契機となった疾患別の構成比の比較結果

| | BPSD対応の負担感大 | 精神科病院へ転院 |
|------------------------------------|-------------|----------|
| 感染症及び寄生虫症(A、B) | 2.3 % | 4.9 % |
| 新生物(C、D0-D4) | 2.7 % | 7.3 % |
| 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(D5-D8) | 1.2 % | 0.0 % |
| 内分泌、栄養及び代謝疾患(E) | 6.4 % | 9.8 % |
| 精神及び行動の障害(F) | 4.5 % | 14.6 % |
| 神経系の疾患(G) | 14.1 % | 17.1 % |
| 眼及び付属器の疾患(H0-H5) | 0.0 % | 0.0 % |
| 耳及び乳様突起の疾患(H6-H9) | 0.0 % | 0.0 % |
| 循環器系の疾患(I) | 12.9 % | 2.4 % |
| 呼吸器系の疾患(J) | 19.5 % | 4.9 % |
| 消化器系の疾患(K) | 8.8 % | 2.4 % |
| 皮膚及び皮下組織の疾患(L) | 1.8 % | 2.4 % |
| 筋骨格系及び結合組織の疾患(M) | 14.1 % | 17.1 % |
| 腎尿路生殖器系の疾患(N) | 5.3 % | 7.3 % |
| 妊娠、分娩及び産じょく(O) | 0.0 % | 0.0 % |
| 周産期に発生した病態(P) | 0.0 % | 0.0 % |
| 先天奇形、変形及び染色体異常(Q) | 0.0 % | 0.0 % |
| 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R) | 2.5 % | 0.0 % |
| 損傷、中毒及びその他の外因の影響(S、T) | 3.9 % | 9.8 % |

認知症の重症度別の構成比の比較結果を図表 5-16、認知症の周辺症状別の比較結果を図表 5-17 に示す。

なお、認知症の重症度の尺度として FAST (Functional Assessment Stages) を使用した。FAST による認知症の中核症状の臨床経過の分類と、その病期における特徴を以下に示す。

| 臨床経過 | 認知症の中核症状 | 当該病期における特徴 |
|-------|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ステージ1 | 正常:認知機能低下なし | 主観的および客観的機能低下は認められない。 |
| ステージ2 | 非常に軽度の認知機能の低下 | 物の置き忘れを訴える, 換語困難 |
| ステージ3 | 軽度の認知機能低下 | 熟練を要する仕事の場面では機能低下が同僚によって認められる。新しい場所に旅行することは困難。熟練を要する仕事で支障, 初めての場所への旅行が難しい。 |
| ステージ4 | 中等度の認知機能低下 | 夕食に客を招く段取りをつけたり, 家計を管理したり, 買い物をしたりする程度の仕事でも支障をきたす。 |
| ステージ5 | やや高度の認知機能低下 | 介助なしでは適切な洋服を選んで着ることができない。入浴させるときにもなんとかなだめすかして説得することが必要なこともある。 |
| ステージ6 | 高度の認知機能低下 | (a)不適切に着衣 (b)入浴に介助を要する。入浴を嫌がる。 (c)トイレの水を流せなくなる。 (d)尿失禁 (e)便失禁 |
| ステージ7 | 非常に高度の認知機能低下 | (a)最大限約 6 語に限定された言語機能の低下 (b)理解しうる語はただ 1 つの単語となる (c)歩行能力の低下 (d)着座能力の喪失 (e)笑う能力の喪失 (f)昏迷および昏睡 |

認知症の重症度については顕著な差はみれなかった。一方、周辺症状については、精神科病院へ転院した事例の方が「幻視・幻聴」の構成比で、19ポイント程度高くなっており、「妄想」でも17ポイント程度高くなっている。中核症状よりも、どのような周辺症状が出ているかが、精神科病院への転院を判断する上で重視される要素となっていることが伺える。また、BPSDの中では「暴言」や「徘徊」等の行動症状よりも、「幻視・幻聴」や「妄想」等の心理症状での比率がより顕著に高まっていた。

図表 5-16 認知症の重症度別の構成比の比較結果

| | BPSD対応の負担感大 | 精神科病院へ転院 |
|------------|-------------|----------|
| 認知症のステージ 1 | 0.2 % | 0.0 % |
| 認知症のステージ 2 | 2.2 % | 3.3 % |
| 認知症のステージ 3 | 3.2 % | 6.7 % |
| 認知症のステージ 4 | 7.2 % | 10.0 % |
| 認知症のステージ 5 | 21.0 % | 23.3 % |
| 認知症のステージ 6 | 35.9 % | 30.0 % |
| 認知症のステージ 7 | 30.2 % | 26.7 % |

図表 5-17 認知症の周辺症状別の構成比の比較結果

| | BPSD対応の負担感大 | 精神科病院へ転院 |
|-----------|-------------|----------|
| 幻視・幻聴 | 20.1 % | 38.6 % |
| 妄想 | 26.0 % | 43.2 % |
| 昼夜逆転 | 43.9 % | 43.2 % |
| 暴言 | 31.1 % | 40.9 % |
| 介護への抵抗 | 49.0 % | 56.8 % |
| 徘徊 | 27.2 % | 36.4 % |
| 大声、叫声 | 37.8 % | 43.2 % |
| 不潔行為 | 23.8 % | 22.7 % |
| 他の利用者への危害 | 2.4 % | 2.3 % |
| 暴行 | 14.2 % | 18.2 % |
| 施設脱走企図 | 3.9 % | 6.8 % |
| その他の周辺症状 | 5.5 % | 4.5 % |

症状（妄想、幻覚、興奮、うつ、不安、多幸、無関心、脱抑制、易怒性、異常行動）別の重症度の「重度」の該当者の構成比が 10 ポイント以上異なる症状は、「幻覚」と「易怒性」であった。

BPSD 症状「幻覚」の重症度別の構成比の比較結果を図表 5-18、「易怒性」の重症度別の比較結果を図表 5-19 に示す。

BPSD 症状「幻覚」では、精神科病院へ転院した事例の方が「当該 BPSD の症状 なし」の構成比で▲13 ポイント程度、「軽度」で▲10 ポイント程度となっており、「重度」の構成比は 19 ポイント程度高くなっている。

BPSD 症状「易怒性」では、精神科病院へ転院した事例の方が「軽度」の構成比で▲14 ポイント程度、「中等度」で▲5 ポイント程度となっており、「重度」の構成比は 16 ポイント程度高くなっている。

図表 5-18 BPSD 症状「幻覚」の重症度別の構成比の比較結果

| 幻覚 | BPSD対応の負担感大 | 精神科病院へ転院 | |
|---------------|-------------|----------|-----|
| 当該BPSDの症状 なし | 63.4 % | 50.0 % | ■■ |
| 当該BPSDの症状 軽度 | 16.3 % | 6.8 % | ■ |
| 当該BPSDの症状 中等度 | 14.6 % | 18.2 % | |
| 当該BPSDの症状 重度 | 5.7 % | 25.0 % | ■■■ |

図表 5-19 BPSD 症状「易怒性」の重症度別の構成比の比較結果

| 易怒性 | BPSD対応の負担感大 | 精神科病院へ転院 | |
|---------------|-------------|----------|-----|
| 当該BPSDの症状 なし | 42.7 % | 45.5 % | |
| 当該BPSDの症状 軽度 | 18.1 % | 4.5 % | ■■ |
| 当該BPSDの症状 中等度 | 25.6 % | 20.5 % | ■ |
| 当該BPSDの症状 重度 | 13.6 % | 29.5 % | ■■■ |

6. まとめと提言

入院の契機となった疾患「循環器系の疾患 (I)」及び「呼吸器系の疾患 (J)」は、一般病床、医療療養、介護療養のいずれの病床種類においても、認知症患者での該当者の割合が高い疾患であった。これらの疾患は、全患者でみたときの該当者の割合も高く、また当該疾患における認知症患者の割合も高くなっている。一方、入院の契機となった疾患「消化器系疾患(K)」、「新生物(C、DO-D4)」は、認知症患者での該当割合が低い疾患といえる (p.13 の図表 3-9)。

一方、一般病床、医療療養、介護療養の病床から精神科病院へ転院した事例においては、入院の契機となった疾患「循環器系の疾患 (I)」及び「呼吸器系の疾患 (J)」の該当者の割合は、BPSD 対応が必要となりケアの負担感が大きい事例と比較して 10 ポイント以上低くなっている (p.35 の図表 5-15)。

| | 入院の契機となった疾患 | |
|-------------------------|-------------|------------|
| | 循環器系の疾患 | 呼吸器系の疾患 |
| 一般病床・療養病床の入院患者 | 当該疾患の割合が高い | 当該疾患の割合が高い |
| 一般病床・療養病床から精神科病院へ転院した患者 | 当該疾患の割合が低い | 当該疾患の割合が低い |

このことから、「循環器系の疾患 (I)」あるいは「呼吸器系の疾患 (J)」が増悪したため入院を要する患者に認知症が併存する場合は、精神科病院よりも一般病床・療養病床を有する病院で受け入れるケースが多いことが伺える。

また、BPSD 対応が必要でケアの負担感が大きい事例があったとした病院が半数以上であった (p.25 の図表 5-1)。BPSD 対応の負担感大の事例と、精神科病院へ転院した事例を比較した場合、認知症の中核症状ステージでは顕著な差が見られなかった。一方、周辺症状については、精神科病院へ転院した事例で「幻視・幻聴」、「妄想」の該当割合が 15 ポイント以上高くなっており、BPSD 症状「幻覚」、「易怒性」が重度の割合が 15 ポイント以上高くなっていた (p.37~38 の図表 5-16~19)。

一義的には、増悪した疾患への対応が優先されるべきであることは明らかである。緊急性が高い、あるいは重度であれば、当該疾患への十分な対応力を有する病院への搬送が適切である。一方、増悪した疾患の緊急性が低い、あるいは軽度であって十分対応可能な身体疾患であれば地域の病院等で受入れることができるが、認知症を合併しており、BPSDの「幻視・幻聴」、「妄想」、「易怒性」等が重度である患者を受入れるためには、BPSDへの対応力が高い精神科病院との連携を強化する必要がある。

入院患者がどこからきて（入院前の居場所）、どこへいくのか（退院先）を比較することで、病院での入院を経由して「どこ」から「どこ」へ患者数が移っているかを把握することができる。経由する病床ごとに、入院超過となっている入院前の居場所、及び退院超過となっている退院先を整理したものを以下に示す。

| 入院超過 (入院患者数 >> 退院患者数) | 経由する病床 | 退院超過 (入院患者数 << 退院患者数) |
|--------------------------|----------|--------------------------|
| 「自宅」、「医療機関（精神科病床以外）」 | ⇒ 一般病床 ⇒ | 「死亡」 |
| 「医療機関（精神科病床以外）」 | ⇒ 医療療養 ⇒ | 「死亡」、「自宅」、「老健」 |
| 「医療機関（精神科病床以外）」、「自宅」 | ⇒ 介護療養 ⇒ | 「死亡」、「老健」、「特養」 |

「BPSD 対応がでケアの負担感が大きい事例」または「精神科病院へ転院した事例」に該当する患者の BPSD 重症度とケア負担度の相関係数は 0.93 であり、強い正の相関がみられた (p.27 の図表 5-3)。

BPSD 対応マニュアルを導入している病院における事例と、導入していない病院における事例を比較した結果、BPSD 対応マニュアルを導入している施設では、BPSD の重症度に比してケアの負担度が低くなる傾向がみられた (p.29 の図表 5-6~7)。

平成 25 年 7 月~9 月の 3 か月間に、BPSD 対応が必要でケアの負担感が大きい事例があるとされた病院が 53%程度であった (p.22 の図表 4-2)。

しかしながら、すでに BPSD 対応マニュアルを導入している病院は、15%程度にとどまっている (p.22 の図表 4-1)。

本調査結果から、BPSD 対応マニュアル導入等の取り組みが、ケアの負担度を軽減させることが示唆されているので、BPSD 対応が必要な事例を有する病院においては、BPSD 対応マニュアルを導入する等、職員の BPSD 対応力を向上させる取り組みを推進することが望まれる。

「BPSD 対応でケアの負担感が大きい事例」と「精神科病院へ転院した事例」で、入院前の状況を比較した結果、精神科病院へ転院した事例において下記の項目の該当者割合が高くなっていた（p.33～34 の図表 5-12～14）。

| 「精神科病院へ転院した事例」で該当者割合が 15 ポイント以上高くなっていた項目 | |
|------------------------------------------|--------------------------|
| 入院前の居場所 | 『自宅で独居』 |
| かかりつけ医 | 『入院前から精神科のかかりつけ医がいる』 |
| 利用していたサービス | 『医療保険の利用なし』、 『介護保険の利用なし』 |

入院前から精神科のかかりつけ医がいて、精神科病院へ転院した事例は、身体疾患の増悪に対応するために一般病床・療養病床を有する病院へ入院し、身体疾患の状態が安定したので精神科病院へ転院したと考えられる。

一方、『自宅で独居』、『医療保険の利用なし』、『介護保険の利用なし』という入院前の状況から入院治療を行った後、精神科病院へ転院した事例については、入院前に何らかの介入が必要な状態であったと考えられる。

自院で対応困難な認知症・BPSD に対応できる医療機関の把握状況からみると、対応できる医療機関を把握していて、その医療機関と連携している病院が 5 割を超えているものの、把握しているにも係らず連携できていない病院が 4 割程度あることが分かった（p23 の図表 4-4）。

これらのことからみて、認知症患者が増える今後の社会では、一般病床・療養病床を有する病院と精神科病床を有する病院との連携・情報交換が一層重要となってくる。認知症疾患医療センターの整備は重要であるが、早期発見と早期対応において既存の医療機関を有効に使う地域での仕組み作りが急務である。

資料 全項目の集計結果

資料 全項目の集計結果

調査票の設問ごとの集計結果を以下に示す。

資料の目次

| | | |
|---------|-------------------------------|----|
| 図表 A-1 | 開設者別の施設数 | 43 |
| 図表 A-2 | 病床種類別の病床数 | 44 |
| 図表 A-3 | 入院基本料の届出状況 | 44 |
| 図表 A-4 | 特定入院料の届出状況 | 44 |
| 図表 A-5 | 併設の施設・事業所 | 45 |
| 図表 A-6 | 100 床当たりの職員数 | 45 |
| 図表 A-7 | 入院時の認知症の有無別の新規入院患者数 | 46 |
| 図表 A-8 | 入院前の居場所別の新規入院患者数 | 46 |
| 図表 A-9 | 入院時に併存している精神疾患別の新規入院患者数 | 47 |
| 図表 A-10 | 入院の契機となった疾患別の新規入院患者数 | 48 |
| 図表 A-11 | 認知症の状態別の入院患者数 | 49 |
| 図表 A-12 | BPSD 対応マニュアルの導入状況 | 49 |
| 図表 A-13 | 認知症と身体疾患の合併への対応状況 | 49 |
| 図表 A-14 | 認知症ケアパスへの取り組み状況 | 50 |
| 図表 A-15 | 退院先別の退院患者数 | 50 |
| 図表 A-16 | 対応困難な身体症状に対応できる医療機関の把握状況 | 51 |
| 図表 A-17 | 対応困難な認知症・BPSD に対応できる医療機関の把握状況 | 51 |
| 図表 A-18 | 在宅の認知症患者への診療状況 | 51 |
| 図表 A-19 | 在宅の認知症患者への支援状況 | 51 |
| 図表 A-20 | 在宅の認知症患者への支援における連携先の状況 | 52 |
| 図表 A-21 | 性別の事例数 | 52 |
| 図表 A-22 | 年齢階級別の事例数 | 52 |
| 図表 A-23 | 退院状況別の事例数 | 53 |
| 図表 A-24 | 認知症の診断名別の事例数 | 54 |
| 図表 A-25 | 入院前の居場所別の事例数 | 54 |
| 図表 A-26 | 認知症高齢者の日常生活自立度別の事例数 | 55 |

| | | |
|---------|-------------------------|----|
| 図表 A-27 | 障害高齢者の日常生活自立度別の事例数 | 55 |
| 図表 A-28 | 要介護度別の事例数 | 56 |
| 図表 A-29 | 入院前のかかりつけ医別の事例数 | 56 |
| 図表 A-30 | 入院前に利用していた主なサービス別の事例数 | 57 |
| 図表 A-31 | 入院していた病棟種類別の事例数 | 57 |
| 図表 A-32 | 入院の契機となった疾患別の事例数 | 58 |
| 図表 A-33 | 認知症の重症度別の事例数 | 59 |
| 図表 A-34 | 認知症の周辺症状別の事例数 | 59 |
| 図表 A-35 | 「妄想」の重症度別及びケア負担感別の事例数 | 60 |
| 図表 A-36 | 「幻覚」の重症度別及びケア負担感別の事例数 | 60 |
| 図表 A-37 | 「興奮」の重症度別及びケア負担感別の事例数 | 61 |
| 図表 A-38 | 「うつ」の重症度別及びケア負担感別の事例数 | 61 |
| 図表 A-39 | 「不安」の重症度別及びケア負担感別の事例数 | 62 |
| 図表 A-40 | 「多幸」の重症度別及びケア負担感別の事例数 | 62 |
| 図表 A-41 | 「無関心」の重症度別及びケア負担感別の事例数 | 63 |
| 図表 A-42 | 「脱抑制」の重症度別及びケア負担感別の事例数 | 63 |
| 図表 A-43 | 「易怒性」の重症度別及びケア負担感別の事例数 | 64 |
| 図表 A-44 | 「異常行動」の重症度別及びケア負担感別の事例数 | 64 |
| 図表 A-45 | 100床当たりの事例数別の施設数分布 | 65 |

図表 A-1 開設者別の施設数

| | 一般病床100% | | 療養病床100% | | ケアミックス | | 全施設種類 | |
|-----------|----------|---------|----------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 |
| 国立 | — | | — | | — | | — | |
| 公立 | 18 施設 | 26.1 % | 1 施設 | 0.9 % | 13 施設 | 14.9 % | 32 施設 | 12.1 % |
| 公的 | 2 施設 | 2.9 % | — | | 1 施設 | 1.1 % | 3 施設 | 1.1 % |
| 社会保険関係 | 1 施設 | 1.4 % | — | | 1 施設 | 1.1 % | 2 施設 | 0.8 % |
| 医療法人 | 36 施設 | 52.2 % | 91 施設 | 84.3 % | 64 施設 | 73.6 % | 191 施設 | 72.3 % |
| 社会福祉法人 | — | | 3 施設 | 2.8 % | — | | 3 施設 | 1.1 % |
| その他の法人 | 9 施設 | 13.0 % | 8 施設 | 7.4 % | 8 施設 | 9.2 % | 25 施設 | 9.5 % |
| 個人 | 3 施設 | 4.3 % | 5 施設 | 4.6 % | — | | 8 施設 | 3.0 % |
| 施設票の有効回答数 | 69 施設 | 100.0 % | 108 施設 | 100.0 % | 87 施設 | 100.0 % | 264 施設 | 100.0 % |

図表 A-2 病床種類別の病床数

| | 一般病床100% | | 療養病床100% | | ケアミックス | | 全施設種類 | |
|----------|----------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|---------|
| | 病床数 | 構成比 | 病床数 | 構成比 | 病床数 | 構成比 | 病床数 | 構成比 |
| 一般病床 | 10,942 床 | 100.0 % | — | | 5,993 床 | 51.3 % | 16,935 床 | 48.9 % |
| 療養病床 | — | | 12,035 床 | 100.0 % | 5,648 床 | 48.4 % | 17,683 床 | 51.0 % |
| (うち)医療保険 | — | | 9,255 床 | 76.9 % | 4,733 床 | 40.5 % | 13,988 床 | 40.4 % |
| (うち)介護保険 | — | | 2,780 床 | 23.1 % | 915 床 | 7.8 % | 3,695 床 | 10.7 % |
| 精神科病床 | — | | — | | — | | — | |
| その他の病床 | — | | — | | 40 床 | 0.3 % | 40 床 | 0.1 % |
| 合計 | 10,942 床 | 100.0 % | 12,035 床 | 100.0 % | 11,681 床 | 100.0 % | 34,658 床 | 100.0 % |

図表 A-3 入院基本料の届出状況

| | 一般病床100% | | 療養病床100% | | ケアミックス | | 全施設種類 | |
|---------------|----------|---------|----------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 |
| 一般病棟入院基本料7対1 | 28 施設 | 40.6 % | — | | 7 施設 | 8.0 % | 35 施設 | 13.3 % |
| 一般病棟入院基本料10対1 | 23 施設 | 33.3 % | — | | 41 施設 | 47.1 % | 64 施設 | 24.2 % |
| 一般病棟入院基本料13対1 | 3 施設 | 4.3 % | — | | 7 施設 | 8.0 % | 10 施設 | 3.8 % |
| 一般病棟入院基本料15対1 | 9 施設 | 13.0 % | — | | 23 施設 | 26.4 % | 32 施設 | 12.1 % |
| 療養病棟入院基本料1 | — | | 65 施設 | 60.2 % | 38 施設 | 43.7 % | 103 施設 | 39.0 % |
| 療養病棟入院基本料2 | — | | 43 施設 | 39.8 % | 26 施設 | 29.9 % | 69 施設 | 26.1 % |
| その他の入院基本料 | 10 施設 | 14.5 % | 8 施設 | 7.4 % | 11 施設 | 12.6 % | 29 施設 | 11.0 % |
| 施設票の有効回答数 | 69 施設 | 100.0 % | 108 施設 | 100.0 % | 87 施設 | 100.0 % | 264 施設 | 100.0 % |

図表 A-4 特定入院料の届出状況

| | 一般病床100% | | 療養病床100% | | ケアミックス | | 全施設種類 | |
|-------------------|----------|---------|----------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 |
| 救命救急入院料 | 2 施設 | 2.9 % | — | | — | | 2 施設 | 0.8 % |
| 回復期リハビリテーション病棟入院料 | 10 施設 | 14.5 % | 17 施設 | 15.7 % | 26 施設 | 29.9 % | 53 施設 | 20.1 % |
| 特殊疾患病棟入院料 | 1 施設 | 1.4 % | — | | 3 施設 | 3.4 % | 4 施設 | 1.5 % |
| 緩和ケア病棟入院料 | 5 施設 | 7.2 % | — | | 4 施設 | 4.6 % | 9 施設 | 3.4 % |
| 特定一般病棟入院料 | — | | — | | — | | — | |
| 亜急性期入院医療管理料 | 15 施設 | 21.7 % | — | | 17 施設 | 19.5 % | 32 施設 | 12.1 % |
| 特定集中治療室管理料 | 8 施設 | 11.6 % | — | | 1 施設 | 1.1 % | 9 施設 | 3.4 % |
| ハイケアユニット入院医療管理料 | 2 施設 | 2.9 % | — | | — | | 2 施設 | 0.8 % |
| 施設票の有効回答数 | 69 施設 | 100.0 % | 108 施設 | 100.0 % | 87 施設 | 100.0 % | 264 施設 | 100.0 % |

図表 A-5 併設の施設・事業所

| | 一般病床100% | | 療養病床100% | | ケアミックス | | 全施設種類 | |
|---------------|----------|---------|----------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 |
| 医療機関(精神科病床なし) | 16 施設 | 23.2 % | 19 施設 | 17.6 % | 22 施設 | 25.3 % | 57 施設 | 21.6 % |
| 医療機関(精神科病床あり) | — | | — | | 2 施設 | 2.3 % | 2 施設 | 0.8 % |
| 認知症疾患医療センター | 1 施設 | 1.4 % | — | | — | | 1 施設 | 0.4 % |
| 介護療養型医療施設 | — | | 26 施設 | 24.1 % | 11 施設 | 12.6 % | 37 施設 | 14.0 % |
| 介護老人保健施設 | 12 施設 | 17.4 % | 24 施設 | 22.2 % | 27 施設 | 31.0 % | 63 施設 | 23.9 % |
| 介護老人福祉施設(特養) | 3 施設 | 4.3 % | 3 施設 | 2.8 % | 5 施設 | 5.7 % | 11 施設 | 4.2 % |
| グループホーム | 6 施設 | 8.7 % | 18 施設 | 16.7 % | 10 施設 | 11.5 % | 34 施設 | 12.9 % |
| サービス付き高齢者向け住宅 | 4 施設 | 5.8 % | 6 施設 | 5.6 % | 5 施設 | 5.7 % | 15 施設 | 5.7 % |
| 地域包括支援センター | 2 施設 | 2.9 % | 4 施設 | 3.7 % | 9 施設 | 10.3 % | 15 施設 | 5.7 % |
| 居宅介護支援事業所 | 12 施設 | 17.4 % | 42 施設 | 38.9 % | 39 施設 | 44.8 % | 93 施設 | 35.2 % |
| 訪問看護ステーション | 20 施設 | 29.0 % | 23 施設 | 21.3 % | 34 施設 | 39.1 % | 77 施設 | 29.2 % |
| 重度認知症患者デイケア | — | | — | | — | | — | |
| 施設票の有効回答数 | 69 施設 | 100.0 % | 108 施設 | 100.0 % | 87 施設 | 100.0 % | 264 施設 | 100.0 % |

図表 A-6 100床当たりの職員数

| | 一般病床100% | 療養病床100% | ケアミックス | 全施設種類 |
|----------------|------------|------------|------------|------------|
| | 100床当たり職員数 | 100床当たり職員数 | 100床当たり職員数 | 100床当たり職員数 |
| 医師 | 17.4 人 | 4.3 人 | 7.9 人 | 9.7 人 |
| 看護職員 | 80.4 人 | 31.7 人 | 48.4 人 | 52.7 人 |
| 看護補助者(介護福祉士含む) | 13.0 人 | 26.8 人 | 20.3 人 | 20.3 人 |
| (うち)介護福祉士 | 1.6 人 | 10.8 人 | 6.6 人 | 6.5 人 |
| 医療相談員 | 1.6 人 | 1.5 人 | 1.4 人 | 1.5 人 |
| (うち)社会福祉士 | 1.2 人 | 0.8 人 | 1.1 人 | 1.0 人 |
| 理学療法士(PT) | 5.8 人 | 5.7 人 | 7.5 人 | 6.3 人 |
| 作業療法士(OT) | 2.9 人 | 3.6 人 | 4.2 人 | 3.6 人 |
| 言語聴覚士(ST) | 1.4 人 | 1.6 人 | 1.7 人 | 1.6 人 |
| 施設票の有効回答数 | 69 施設 | 108 施設 | 87 施設 | 264 施設 |

図表 A-7 入院時の認知症の有無別の新規入院患者数

| | 一般病床 | | 医療療養 | | 介護療養 | |
|-----------------------|----------|---------|---------|---------|-------|---------|
| | 患者数 | 構成比 | 患者数 | 構成比 | 患者数 | 構成比 |
| 新規入院患者(3か月間) | 60,895 人 | 100.0 % | 5,570 人 | 100.0 % | 642 人 | 100.0 % |
| (うち)入院時に認知症と判明している | 6,140 人 | 10.1 % | 2,027 人 | 36.4 % | 428 人 | 66.7 % |
| (うち)入院時に認知症でないと判明している | 26,145 人 | 42.9 % | 2,457 人 | 44.1 % | 126 人 | 19.6 % |
| (うち)入院時に認知症か否か不明 | 28,610 人 | 47.0 % | 1,086 人 | 19.5 % | 88 人 | 13.7 % |
| (不明のうち)入院中に認知症と判明 | 1,292 人 | 2.1 % | 203 人 | 3.6 % | 17 人 | 2.6 % |
| (不明のうち)入院中に認知症でないと判明 | 2,917 人 | 4.8 % | 432 人 | 7.8 % | 12 人 | 1.9 % |

図表 A-8 入院前の居場所別の新規入院患者数

| | 一般病床 | | 医療療養 | | 介護療養 | |
|---------------|---------------------|-----------------------|--------------------|-----------------------|------------------|---------------------|
| | 患者数 構成比 | (認知症) (割合) | 患者数 構成比 | (認知症) (割合) | 患者数 構成比 | (認知症) (割合) |
| [再掲] 新規入院患者 | 60,895 人 100.0 % | (6,140 人) (10.1 %) | 5,570 人 100.0 % | (2,027 人) (36.4 %) | 642 人 100.0 % | (428 人) (66.7 %) |
| 自宅 | 47,559 人 78.1 % | (2,816 人) (5.9 %) | 1,403 人 25.2 % | (438 人) (31.2 %) | 160 人 24.9 % | (55 人) (34.4 %) |
| 医療機関(精神科病床) | 243 人 0.4 % | (69 人) (28.6 %) | 105 人 1.9 % | (23 人) (21.9 %) | 7 人 1.1 % | (7 人) (100.0 %) |
| 医療機関(精神科病床以外) | 6,423 人 10.5 % | (1,086 人) (16.9 %) | 3,213 人 57.7 % | (1,113 人) (34.6 %) | 373 人 58.1 % | (288 人) (77.2 %) |
| 介護老人保健施設 | 2,293 人 3.8 % | (633 人) (27.6 %) | 244 人 4.4 % | (130 人) (53.3 %) | 42 人 6.5 % | (34 人) (81.0 %) |
| 介護老人福祉施設(特養) | 2,226 人 3.7 % | (830 人) (37.3 %) | 343 人 6.2 % | (178 人) (51.9 %) | 26 人 4.0 % | (18 人) (69.2 %) |
| グループホーム | 472 人 0.8 % | (230 人) (48.8 %) | 60 人 1.1 % | (42 人) (70.0 %) | 6 人 0.9 % | (6 人) (100.0 %) |
| サービス付高齢者向け住宅 | 132 人 0.2 % | (49 人) (37.4 %) | 32 人 0.6 % | (10 人) (31.3 %) | 3 人 0.5 % | (2 人) (66.7 %) |
| その他の介護施設 | 673 人 1.1 % | (261 人) (38.8 %) | 77 人 1.4 % | (46 人) (59.7 %) | 2 人 0.3 % | (2 人) (100.0 %) |
| 上記以外の居場所 | 875 人 1.4 % | (165 人) (18.8 %) | 93 人 1.7 % | (47 人) (50.5 %) | 23 人 3.6 % | (16 人) (69.6 %) |

図表 A-9 入院時に併存している精神疾患別の新規入院患者数

| | 一般病床 患者数 構成比 | 医療療養 患者数 構成比 | 介護療養 患者数 構成比 |
|-------------------------------------------|---------------------|--------------------|--------------------|
| [再掲] 新規入院患者 | 60,895 人 100.0 % | 5,570 人 100.0 % | 642 人 100.0 % |
| (うち)アルツハイマー<Alzheimer>病の認知症(F00) | 1,428 人 2.3 % | 473 人 8.5 % | 84 人 13.1 % |
| (うち)血管性認知症(F01) | 555 人 0.9 % | 436 人 7.8 % | 120 人 18.7 % |
| (うち)他に分類されるその他の疾患の認知症(F02) | 105 人 0.2 % | 178 人 3.2 % | 30 人 4.7 % |
| (うち)詳細不明の認知症(F03) | 1,196 人 2.0 % | 437 人 7.8 % | 60 人 9.3 % |
| (うち)器質性健忘症候群, アルコールその他の精神作用物質によらないもの(F04) | 18 人 0.0 % | 3 人 0.1 % | 3 人 0.5 % |
| (うち)せん妄, アルコールその他の精神作用物質によらないもの(F05) | 62 人 0.1 % | 19 人 0.3 % | — |
| (うち)脳の損傷及び機能不全並びに身体疾患によるその他の精神障害(F06) | 87 人 0.1 % | 126 人 2.3 % | 1 人 0.2 % |
| (うち)脳の疾患, 損傷及び機能不全による人格及び行動の障害(F07) | 110 人 0.2 % | 21 人 0.4 % | 25 人 3.9 % |
| (うち)詳細不明の器質性又は症状性精神障害(F09) | 13 人 0.0 % | 4 人 0.1 % | 2 人 0.3 % |
| (うち)精神作用物質使用による精神及び行動の障害(F1) | 81 人 0.1 % | 2 人 0.0 % | — |
| (うち)統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害(F2) | 291 人 0.5 % | 56 人 1.0 % | 3 人 0.5 % |
| (うち)気分[感情]障害(F3) | 295 人 0.5 % | 64 人 1.1 % | 2 人 0.3 % |
| (うち)神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害(F4) | 168 人 0.3 % | 8 人 0.1 % | 3 人 0.5 % |
| (うち)生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群(F5) | 16 人 0.0 % | — | 1 人 0.2 % |
| (うち)成人の人格及び行動の障害(F6) | 2 人 0.0 % | 5 人 0.1 % | — |
| (うち)知的障害<精神遅滞>(F7) | 33 人 0.1 % | 13 人 0.2 % | 2 人 0.3 % |
| (うち)心理的発達障害(F8) | 4 人 0.0 % | — | — |
| (うち)小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害(F9) | 100 人 0.2 % | — | — |

図表 A-10 入院の契機となった疾患別の新規入院患者数

| | 一般病床 | | 医療療養 | | 介護療養 | |
|------------------------------------|---------------------|-----------------------|--------------------|-----------------------|------------------|---------------------|
| | 患者数 構成比 | (認知症) (割合) | 患者数 構成比 | (認知症) (割合) | 患者数 構成比 | (認知症) (割合) |
| [再掲] 新規入院患者 | 60,895 人 100.0 % | (6,140 人) (10.1 %) | 5,570 人 100.0 % | (2,027 人) (36.4 %) | 642 人 100.0 % | (423 人) (65.9 %) |
| 感染症及び寄生虫症(A、B) | 1,717 人 2.8 % | (214 人) (12.5 %) | 73 人 1.3 % | (48 人) (65.8 %) | 4 人 0.6 % | (4 人) (100.0 %) |
| 新生物(C、D0-D4) | 8,228 人 13.5 % | (417 人) (5.1 %) | 198 人 3.6 % | (75 人) (37.9 %) | 17 人 2.6 % | (14 人) (82.4 %) |
| 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(D5-D8) | 611 人 1.0 % | (66 人) (10.8 %) | 123 人 2.2 % | (81 人) (65.9 %) | 10 人 1.6 % | (10 人) (100.0 %) |
| 内分泌、栄養及び代謝疾患(E) | 2,130 人 3.5 % | (324 人) (15.2 %) | 312 人 5.6 % | (151 人) (48.4 %) | 86 人 13.4 % | (35 人) (40.7 %) |
| 精神及び行動の障害(F) | 379 人 0.6 % | (104 人) (27.4 %) | 122 人 2.2 % | (76 人) (62.3 %) | 22 人 3.4 % | (20 人) (90.9 %) |
| 神経系の疾患(G) | 3,490 人 5.7 % | (508 人) (14.6 %) | 654 人 11.7 % | (277 人) (42.4 %) | 117 人 18.2 % | (93 人) (79.5 %) |
| 眼及び付属器の疾患(H0-H5) | 1,867 人 3.1 % | (25 人) (1.3 %) | 1 人 0.0 % | — | — | — |
| 耳及び乳様突起の疾患(H6-H9) | 604 人 1.0 % | (12 人) (2.0 %) | 6 人 0.1 % | — | — | — |
| 循環器系の疾患(I) | 10,157 人 16.7 % | (1,206 人) (11.9 %) | 1,439 人 25.8 % | (411 人) (28.6 %) | 192 人 29.9 % | (132 人) (68.8 %) |
| 呼吸器系の疾患(J) | 5,665 人 9.3 % | (1,164 人) (20.5 %) | 751 人 13.5 % | (280 人) (37.3 %) | 86 人 13.4 % | (49 人) (57.0 %) |
| 消化器系の疾患(K) | 7,407 人 12.2 % | (625 人) (8.4 %) | 272 人 4.9 % | (118 人) (43.4 %) | 43 人 6.7 % | (22 人) (51.2 %) |
| 皮膚及び皮下組織の疾患(L) | 1,061 人 1.7 % | (109 人) (10.3 %) | 74 人 1.3 % | (33 人) (44.6 %) | 12 人 1.9 % | (12 人) (100.0 %) |
| 筋骨格系及び結合組織の疾患(M) | 5,321 人 8.7 % | (473 人) (8.9 %) | 792 人 14.2 % | (271 人) (34.2 %) | 25 人 3.9 % | (14 人) (56.0 %) |
| 腎尿路生殖器系の疾患(N) | 2,794 人 4.6 % | (274 人) (9.8 %) | 224 人 4.0 % | (77 人) (34.4 %) | 7 人 1.1 % | (3 人) (42.9 %) |
| 妊娠、分娩及び産じょく(O) | 2,757 人 4.5 % | (29 人) (1.1 %) | — | — | — | — |
| 周産期に発生した病態(P) | 250 人 0.4 % | (1 人) (0.4 %) | — | — | — | — |
| 先天奇形、変形及び染色体異常(Q) | 150 人 0.2 % | — | 3 人 0.1 % | — | — | — |
| 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R) | 1,165 人 1.9 % | (155 人) (13.3 %) | 85 人 1.5 % | (39 人) (45.9 %) | 14 人 2.2 % | (8 人) (57.1 %) |
| 損傷、中毒及びその他の外因の影響(S、T) | 5,142 人 8.4 % | (434 人) (8.4 %) | 441 人 7.9 % | (90 人) (20.4 %) | 7 人 1.1 % | (7 人) (100.0 %) |

図表 A-11 認知症の状態別の入院患者数

| | 一般病床 | | 医療療養 | | 介護療養 | |
|--------------------------------|-------------------|---------|-------------------|---------|-------------------|---------|
| | 患者数 | 構成比 | 患者数 | 構成比 | 患者数 | 構成比 |
| ①入院患者(一時点) | 13,306 人 | 100.0 % | 12,126 人 | 100.0 % | 3,474 人 | 100.0 % |
| ②(うち)認知症 | 2,010 人 | 15.1 % | 5,251 人 | 43.3 % | 2,467 人 | 71.0 % |
| ③ (うち)BPSD (③÷②) | 460 人 (22.9 %) | 3.5 % | 608 人 (11.6 %) | 5.0 % | 282 人 (11.4 %) | 8.1 % |
| ④ (うち)精神科病院への転院を考えている (④÷③) | 8 人 (1.7 %) | 0.1 % | 11 人 (1.8 %) | 0.1 % | 7 人 (2.5 %) | 0.2 % |

図表 A-12 BPSD 対応マニュアルの導入状況

| | 一般病床100% | | 療養病床100% | | ケアミックス | | 全施設種類 | |
|-----------|----------|---------|----------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 |
| 導入していない | 59 施設 | 85.5 % | 82 施設 | 75.9 % | 68 施設 | 78.2 % | 209 施設 | 79.2 % |
| 院内で作成 | 5 施設 | 7.2 % | 17 施設 | 15.7 % | 9 施設 | 10.3 % | 31 施設 | 11.7 % |
| 外部で作成 | 1 施設 | 1.4 % | 4 施設 | 3.7 % | 2 施設 | 2.3 % | 7 施設 | 2.7 % |
| 未回答 | 4 施設 | 5.8 % | 5 施設 | 4.6 % | 8 施設 | 9.2 % | 17 施設 | 6.4 % |
| 施設票の有効回答数 | 69 施設 | 100.0 % | 108 施設 | 100.0 % | 87 施設 | 100.0 % | 264 施設 | 100.0 % |

図表 A-13 認知症と身体疾患の合併への対応状況

| | 一般病床100% | | 療養病床100% | | ケアミックス | | 全施設種類 | |
|-------------------------|----------|---------|----------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 |
| 自院の複数の診療科が協働して対応 | 25 施設 | 36.2 % | 31 施設 | 28.7 % | 33 施設 | 37.9 % | 89 施設 | 33.7 % |
| 外部の専門的な医師のコンサルテーションを受ける | 18 施設 | 26.1 % | 24 施設 | 22.2 % | 19 施設 | 21.8 % | 61 施設 | 23.1 % |
| 提携している他院の協力を受ける | 12 施設 | 17.4 % | 22 施設 | 20.4 % | 16 施設 | 18.4 % | 50 施設 | 18.9 % |
| 提携している他院へ転院させる | 27 施設 | 39.1 % | 18 施設 | 16.7 % | 18 施設 | 20.7 % | 63 施設 | 23.9 % |
| 周囲に迷惑な場合は個室対応等を行う | 33 施設 | 47.8 % | 56 施設 | 51.9 % | 50 施設 | 57.5 % | 139 施設 | 52.7 % |
| その他 | 8 施設 | 11.6 % | 12 施設 | 11.1 % | 7 施設 | 8.0 % | 27 施設 | 10.2 % |
| 未回答 | 7 施設 | 10.1 % | 8 施設 | 7.4 % | 8 施設 | 9.2 % | 23 施設 | 8.7 % |
| 施設票の有効回答数 | 69 施設 | 100.0 % | 108 施設 | 100.0 % | 87 施設 | 100.0 % | 264 施設 | 100.0 % |

図表 A-14 認知症ケアパスへの取り組み状況

| | 一般病床100% | | 療養病床100% | | ケアミックス | | 全施設種類 | |
|------------|----------|---------|----------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 |
| 院内で運用している | — | | 1 施設 | 0.9 % | 2 施設 | 2.3 % | 3 施設 | 1.1 % |
| 運用に向けた準備中 | 1 施設 | 1.4 % | 2 施設 | 1.9 % | 1 施設 | 1.1 % | 4 施設 | 1.5 % |
| あるが運用予定なし | 1 施設 | 1.4 % | 6 施設 | 5.6 % | 1 施設 | 1.1 % | 8 施設 | 3.0 % |
| 開発中である | 2 施設 | 2.9 % | 1 施設 | 0.9 % | 2 施設 | 2.3 % | 5 施設 | 1.9 % |
| 研究会への参加を検討 | 31 施設 | 44.9 % | 48 施設 | 44.4 % | 35 施設 | 40.2 % | 114 施設 | 43.2 % |
| その他 | 22 施設 | 31.9 % | 41 施設 | 38.0 % | 29 施設 | 33.3 % | 92 施設 | 34.8 % |
| 未回答 | 12 施設 | 17.4 % | 9 施設 | 8.3 % | 17 施設 | 19.5 % | 38 施設 | 14.4 % |
| 施設票の有効回答数 | 69 施設 | 100.0 % | 108 施設 | 100.0 % | 87 施設 | 100.0 % | 264 施設 | 100.0 % |

図表 A-15 退院先別の退院患者数

| | 一般病床 | | 医療療養 | | 介護療養 | |
|---------------|---------------------|-----------------------|--------------------|-----------------------|------------------|---------------------|
| | 患者数 構成比 | (認知症) (割合) | 患者数 構成比 | (認知症) (割合) | 患者数 構成比 | (認知症) (割合) |
| 退院患者 | 59,810 人 100.0 % | (6,253 人) (10.5 %) | 6,003 人 100.0 % | (2,345 人) (39.1 %) | 673 人 100.0 % | (458 人) (68.1 %) |
| 自宅 | 43,894 人 73.4 % | (2,328 人) (5.3 %) | 2,289 人 38.1 % | (531 人) (23.2 %) | 136 人 20.2 % | (19 人) (14.0 %) |
| 医療機関(精神科病床) | 1,023 人 1.7 % | (91 人) (8.9 %) | 42 人 0.7 % | (12 人) (28.6 %) | 7 人 1.0 % | (3 人) (42.9 %) |
| 医療機関(精神科病床以外) | 4,032 人 6.7 % | (622 人) (15.4 %) | 761 人 12.7 % | (335 人) (44.0 %) | 162 人 24.1 % | (141 人) (87.0 %) |
| 介護老人保健施設 | 2,170 人 3.6 % | (729 人) (33.6 %) | 462 人 7.7 % | (204 人) (44.2 %) | 74 人 11.0 % | (59 人) (79.7 %) |
| 介護老人福祉施設(特養) | 2,086 人 3.5 % | (892 人) (42.8 %) | 348 人 5.8 % | (174 人) (50.0 %) | 42 人 6.2 % | (28 人) (66.7 %) |
| グループホーム | 326 人 0.5 % | (203 人) (62.3 %) | 64 人 1.1 % | (47 人) (73.4 %) | 8 人 1.2 % | (4 人) (50.0 %) |
| サービス付高齢者向け住宅 | 244 人 0.4 % | (80 人) (32.8 %) | 39 人 0.6 % | (17 人) (43.6 %) | 3 人 0.4 % | (1 人) (33.3 %) |
| その他の介護施設 | 750 人 1.3 % | (250 人) (33.3 %) | 191 人 3.2 % | (68 人) (35.6 %) | 7 人 1.0 % | (4 人) (57.1 %) |
| 死亡退院 | 4,000 人 6.7 % | (804 人) (20.1 %) | 1,711 人 28.5 % | (908 人) (53.1 %) | 225 人 33.4 % | (193 人) (85.8 %) |
| 上記以外の退院先 | 1,285 人 2.1 % | (254 人) (19.8 %) | 96 人 1.6 % | (49 人) (51.0 %) | 9 人 1.3 % | (6 人) (66.7 %) |

図表 A-16 対応困難な身体症状に対応できる医療機関の把握状況

| | 一般病床100% | | 療養病床100% | | ケアミックス | | 全施設種類 | |
|-----------|----------|---------|----------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 |
| 提携できている | 41 施設 | 59.4 % | 72 施設 | 66.7 % | 55 施設 | 63.2 % | 168 施設 | 63.6 % |
| 提携できていない | 22 施設 | 31.9 % | 27 施設 | 25.0 % | 27 施設 | 31.0 % | 76 施設 | 28.8 % |
| 把握していない | 3 施設 | 4.3 % | 3 施設 | 2.8 % | 1 施設 | 1.1 % | 7 施設 | 2.7 % |
| 未回答 | 3 施設 | 4.3 % | 6 施設 | 5.6 % | 4 施設 | 4.6 % | 13 施設 | 4.9 % |
| 施設票の有効回答数 | 69 施設 | 100.0 % | 108 施設 | 100.0 % | 87 施設 | 100.0 % | 264 施設 | 100.0 % |

図表 A-17 対応困難な認知症・BPSDに対応できる医療機関の把握状況

| | 一般病床100% | | 療養病床100% | | ケアミックス | | 全施設種類 | |
|-----------|----------|---------|----------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 |
| 提携できている | 36 施設 | 52.2 % | 57 施設 | 52.8 % | 42 施設 | 48.3 % | 135 施設 | 51.1 % |
| 提携できていない | 25 施設 | 36.2 % | 39 施設 | 36.1 % | 39 施設 | 44.8 % | 103 施設 | 39.0 % |
| 把握していない | 5 施設 | 7.2 % | 7 施設 | 6.5 % | 2 施設 | 2.3 % | 14 施設 | 5.3 % |
| 未回答 | 3 施設 | 4.3 % | 5 施設 | 4.6 % | 4 施設 | 4.6 % | 12 施設 | 4.5 % |
| 施設票の有効回答数 | 69 施設 | 100.0 % | 108 施設 | 100.0 % | 87 施設 | 100.0 % | 264 施設 | 100.0 % |

図表 A-18 在宅の認知症患者への診療状況

| | 一般病床100% | | 療養病床100% | | ケアミックス | | 全施設種類 | |
|-----------|----------|---------|----------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 |
| 自院の外来診療 | 47 施設 | 68.1 % | 71 施設 | 65.7 % | 65 施設 | 74.7 % | 183 施設 | 69.3 % |
| 自院の訪問診療 | 12 施設 | 17.4 % | 23 施設 | 21.3 % | 28 施設 | 32.2 % | 63 施設 | 23.9 % |
| 未回答 | 20 施設 | 29.0 % | 30 施設 | 27.8 % | 17 施設 | 19.5 % | 67 施設 | 25.4 % |
| 施設票の有効回答数 | 69 施設 | 100.0 % | 108 施設 | 100.0 % | 87 施設 | 100.0 % | 264 施設 | 100.0 % |

図表 A-19 在宅の認知症患者への支援状況

| | 一般病床100% | | 療養病床100% | | ケアミックス | | 全施設種類 | |
|----------------|----------|---------|----------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 |
| 訪問看護ステーション | 30 施設 | 43.5 % | 42 施設 | 38.9 % | 48 施設 | 55.2 % | 120 施設 | 45.5 % |
| 認知症デイケア・デイサービス | 12 施設 | 17.4 % | 25 施設 | 23.1 % | 30 施設 | 34.5 % | 67 施設 | 25.4 % |
| その他 | 8 施設 | 11.6 % | 22 施設 | 20.4 % | 18 施設 | 20.7 % | 48 施設 | 18.2 % |
| 未回答 | 31 施設 | 44.9 % | 40 施設 | 37.0 % | 18 施設 | 20.7 % | 89 施設 | 33.7 % |
| 施設票の有効回答数 | 69 施設 | 100.0 % | 108 施設 | 100.0 % | 87 施設 | 100.0 % | 264 施設 | 100.0 % |

図表 A-20 在宅の認知症患者への支援における連携先の状況

| | 一般病床100% | | 療養病床100% | | ケアミックス | | 全施設種類 | |
|---------------|----------|---------|----------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 | 施設数 | 構成比 |
| 認知症疾患医療センター | 8 施設 | 11.6 % | 11 施設 | 10.2 % | 9 施設 | 10.3 % | 28 施設 | 10.6 % |
| 医療機関(精神科病床あり) | 32 施設 | 46.4 % | 36 施設 | 33.3 % | 34 施設 | 39.1 % | 102 施設 | 38.6 % |
| 医療機関(精神科病床なし) | 18 施設 | 26.1 % | 21 施設 | 19.4 % | 27 施設 | 31.0 % | 66 施設 | 25.0 % |
| 地域包括支援センター | 29 施設 | 42.0 % | 49 施設 | 45.4 % | 54 施設 | 62.1 % | 132 施設 | 50.0 % |
| 居宅介護支援事業所 | 29 施設 | 42.0 % | 54 施設 | 50.0 % | 56 施設 | 64.4 % | 139 施設 | 52.7 % |
| 訪問看護ステーション | 34 施設 | 49.3 % | 39 施設 | 36.1 % | 44 施設 | 50.6 % | 117 施設 | 44.3 % |
| その他 | 5 施設 | 7.2 % | 5 施設 | 4.6 % | 4 施設 | 4.6 % | 14 施設 | 5.3 % |
| 未回答 | 20 施設 | 29.0 % | 22 施設 | 20.4 % | 12 施設 | 13.8 % | 54 施設 | 20.5 % |
| 施設票の有効回答数 | 69 施設 | 100.0 % | 108 施設 | 100.0 % | 87 施設 | 100.0 % | 264 施設 | 100.0 % |

図表 A-21 性別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-----------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 男性 | 209 事例 | 41.1 % | 21 事例 | 47.7 % |
| 女性 | 297 事例 | 58.5 % | 23 事例 | 52.3 % |
| 未回答 | 2 事例 | 0.4 % | — | |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-22 年齢階級別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 65歳未満 | 15 事例 | 3.0 % | 5 事例 | 11.4 % |
| 65歳以上 75歳未満 | 42 事例 | 8.3 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 75歳以上 85歳未満 | 187 事例 | 36.8 % | 25 事例 | 56.8 % |
| 85歳以上 95歳未満 | 214 事例 | 42.1 % | 11 事例 | 25.0 % |
| 95歳以上 | 40 事例 | 7.9 % | — | |
| 未回答 | 10 事例 | 2.0 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-23 退院状況別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-----------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 退院した | 311 事例 | 61.2 % | 44 事例 | 100.0 % |
| 退院していない(入院を継続中) | 193 事例 | 38.0 % | — | |
| 未回答 | 4 事例 | 0.8 % | — | |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

退院先 ※退院した場合のみを対象

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|---------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 自宅 | 105 事例 | 33.8 % | — | |
| グループホーム | 14 事例 | 4.5 % | — | |
| 特別養護老人ホーム | 31 事例 | 10.0 % | — | |
| 介護老人保健施設 | 51 事例 | 16.4 % | — | |
| 介護療養型医療施設 | 8 事例 | 2.6 % | — | |
| 老人ホーム | 10 事例 | 3.2 % | — | |
| サービス付き高齢者向け住宅 | 11 事例 | 3.5 % | — | |
| その他の介護施設 | 5 事例 | 1.6 % | — | |
| 病院(一般病床) | 14 事例 | 4.5 % | — | |
| 病院(療養病床) | 10 事例 | 3.2 % | — | |
| 病院(精神科病床) | — | | 44 事例 | 100.0 % |
| 病院(その他病床) | 6 事例 | 1.9 % | — | |
| 有床診療所 | — | | — | |
| 死亡 | 38 事例 | 12.2 % | — | |
| その他 | 4 事例 | 1.3 % | — | |
| 未回答 | 4 事例 | 1.3 % | — | |
| 患者票の有効回答数 | 311 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-24 認知症の診断名別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| アルツハイマー型認知症 | 184 事例 | 36.2 % | 11 事例 | 25.0 % |
| 血管性認知症 | 105 事例 | 20.7 % | 8 事例 | 18.2 % |
| レビー小体型認知症 | 15 事例 | 3.0 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 前頭側頭型認知症 | 5 事例 | 1.0 % | 2 事例 | 4.5 % |
| その他 | 76 事例 | 15.0 % | 12 事例 | 27.3 % |
| 不明 | 105 事例 | 20.7 % | 8 事例 | 18.2 % |
| 未回答 | 18 事例 | 3.5 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-25 入院前の居場所別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|--------------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 独居 | 41 事例 | 8.1 % | 7 事例 | 15.9 % |
| 夫婦のみ | 49 事例 | 9.6 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 夫婦と子 | 34 事例 | 6.7 % | 4 事例 | 9.1 % |
| 本人と子のみ | 35 事例 | 6.9 % | 1 事例 | 2.3 % |
| その他同居者あり | 61 事例 | 12.0 % | 3 事例 | 6.8 % |
| 認知症対応型グループホーム | 12 事例 | 2.4 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 特別養護老人ホーム | 22 事例 | 4.3 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 介護老人保健施設 | 20 事例 | 3.9 % | 3 事例 | 6.8 % |
| 介護療養型医療施設 | 3 事例 | 0.6 % | — | |
| 老人ホーム(介護付有料、養護、軽費) | 13 事例 | 2.6 % | — | |
| サービス付き高齢者向け住宅 | 7 事例 | 1.4 % | — | |
| その他施設 | 4 事例 | 0.8 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 病院(一般病床) | 73 事例 | 14.4 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 病院(療養病床) | 4 事例 | 0.8 % | — | |
| 病院(精神科病床) | 3 事例 | 0.6 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 病院(その他病床) | 3 事例 | 0.6 % | — | |
| 有床診療所 | — | | — | |
| その他 | 1 事例 | 0.2 % | — | |
| 未回答 | 123 事例 | 24.2 % | 18 事例 | 40.9 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-26 認知症高齢者の日常生活自立度別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-----------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 自立 | 7 事例 | 1.4 % | 5 事例 | 11.4 % |
| ランク I | 10 事例 | 2.0 % | 1 事例 | 2.3 % |
| ランク II a | 30 事例 | 5.9 % | — | |
| ランク II b | 66 事例 | 13.0 % | 7 事例 | 15.9 % |
| ランク III a | 117 事例 | 23.0 % | 9 事例 | 20.5 % |
| ランク III b | 53 事例 | 10.4 % | 3 事例 | 6.8 % |
| ランク IV | 168 事例 | 33.1 % | 13 事例 | 29.5 % |
| ランク M | 47 事例 | 9.3 % | 3 事例 | 6.8 % |
| 不明 | 6 事例 | 1.2 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 未回答 | 4 事例 | 0.8 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-27 障害高齢者の日常生活自立度別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-----------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 自立 | 6 事例 | 1.2 % | 1 事例 | 2.3 % |
| ランク J1 | 6 事例 | 1.2 % | 1 事例 | 2.3 % |
| ランク J2 | 22 事例 | 4.3 % | 4 事例 | 9.1 % |
| ランク A1 | 36 事例 | 7.1 % | 4 事例 | 9.1 % |
| ランク A2 | 57 事例 | 11.2 % | 6 事例 | 13.6 % |
| ランク B1 | 64 事例 | 12.6 % | 6 事例 | 13.6 % |
| ランク B2 | 126 事例 | 24.8 % | 6 事例 | 13.6 % |
| ランク C1 | 76 事例 | 15.0 % | 9 事例 | 20.5 % |
| ランク C2 | 91 事例 | 17.9 % | 3 事例 | 6.8 % |
| 不明 | 6 事例 | 1.2 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 未回答 | 18 事例 | 3.5 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-28 要介護度別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-----------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 要支援 1 | 14 事例 | 2.8 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 要支援 2 | 14 事例 | 2.8 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 要介護 1 | 45 事例 | 8.9 % | 3 事例 | 6.8 % |
| 要介護 2 | 67 事例 | 13.2 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 要介護 3 | 75 事例 | 14.8 % | 6 事例 | 13.6 % |
| 要介護 4 | 99 事例 | 19.5 % | 7 事例 | 15.9 % |
| 要介護 5 | 71 事例 | 14.0 % | 4 事例 | 9.1 % |
| 不明 | 74 事例 | 14.6 % | 13 事例 | 29.5 % |
| 未回答 | 49 事例 | 9.6 % | 6 事例 | 13.6 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-29 入院前のかかりつけ医別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-----------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 精神科 | 43 事例 | 8.5 % | 16 事例 | 36.4 % |
| 精神科以外 | 306 事例 | 60.2 % | 14 事例 | 31.8 % |
| 入院前はいない | 80 事例 | 15.7 % | 8 事例 | 18.2 % |
| 未回答 | 79 事例 | 15.6 % | 6 事例 | 13.6 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-30 入院前に利用していた主なサービス別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|----------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 自院の一般科外来診療 | 155 事例 | 30.5 % | 7 事例 | 15.9 % |
| 自院の一般科訪問診療 | 14 事例 | 2.8 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 他院の一般科外来診療 | 110 事例 | 21.7 % | 10 事例 | 22.7 % |
| 他院の一般科訪問診療 | 12 事例 | 2.4 % | — | |
| 他院の精神科外来診療 | 19 事例 | 3.7 % | 4 事例 | 9.1 % |
| 他院の精神科訪問診療 | 1 事例 | 0.2 % | — | |
| 重度認知症デイケア | 1 事例 | 0.2 % | — | |
| 認知症デイケア・デイサービス | 26 事例 | 5.1 % | — | |
| 精神科デイケア | — | | — | |
| 精神科訪問看護(病院) | — | | — | |
| 訪問看護ステーション | 14 事例 | 2.8 % | 1 事例 | 2.3 % |
| その他医療保険 | 29 事例 | 5.7 % | 5 事例 | 11.4 % |
| 利用無し | 79 事例 | 15.6 % | 15 事例 | 34.1 % |
| 介護予防サービス | 15 事例 | 3.0 % | — | |
| 介護予防支援 | 8 事例 | 1.6 % | — | |
| 地域密着型介護予防サービス | 5 事例 | 1.0 % | — | |
| その他予防給付 | 1 事例 | 0.2 % | — | |
| 居宅サービス | 94 事例 | 18.5 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 居宅介護支援 | 59 事例 | 11.6 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 施設サービス | 102 事例 | 20.1 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 地域密着型サービス | 13 事例 | 2.6 % | 1 事例 | 2.3 % |
| その他介護給付 | 11 事例 | 2.2 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 利用無し | 152 事例 | 29.9 % | 27 事例 | 61.4 % |
| 未回答 | 18 事例 | 3.5 % | 3 事例 | 6.8 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-31 入院していた病棟種類別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|----------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 一般病棟 | 248 事例 | 48.8 % | 20 事例 | 45.5 % |
| 療養病棟 | 149 事例 | 29.3 % | 16 事例 | 36.4 % |
| 回復期リハビリテーション病棟 | 36 事例 | 7.1 % | 3 事例 | 6.8 % |
| その他 | 18 事例 | 3.5 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 未回答 | 57 事例 | 11.2 % | 4 事例 | 9.1 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-32 入院の契機となった疾患別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-------------------------------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 感染症及び寄生虫症 (A、B) | 11 事例 | 2.2 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 新生物 (C、D0-D4) | 13 事例 | 2.6 % | 3 事例 | 6.8 % |
| 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 (D5-D8) | 6 事例 | 1.2 % | — | |
| 内分泌、栄養及び代謝疾患 (E) | 31 事例 | 6.1 % | 4 事例 | 9.1 % |
| 精神及び行動の障害 (F) | 22 事例 | 4.3 % | 6 事例 | 13.6 % |
| 神経系の疾患 (G) | 69 事例 | 13.6 % | 7 事例 | 15.9 % |
| 眼及び付属器の疾患 (H0-H5) | — | | — | |
| 耳及び乳様突起の疾患 (H6-H9) | — | | — | |
| 循環器系の疾患 (I) | 63 事例 | 12.4 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 呼吸器系の疾患 (J) | 95 事例 | 18.7 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 消化器系の疾患 (K) | 43 事例 | 8.5 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 皮膚及び皮下組織の疾患 (L) | 9 事例 | 1.8 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 筋骨格系及び結合組織の疾患 (M) | 69 事例 | 13.6 % | 7 事例 | 15.9 % |
| 腎尿路生殖器系の疾患 (N) | 26 事例 | 5.1 % | 3 事例 | 6.8 % |
| 妊娠、分娩及び産じょく (O) | — | | — | |
| 周産期に発生した病態 (P) | — | | — | |
| 先天奇形、変形及び染色体異常 (Q) | — | | — | |
| 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R) | 12 事例 | 2.4 % | — | |
| 損傷、中毒及びその他の外因の影響 (S、T) | 19 事例 | 3.7 % | 4 事例 | 9.1 % |
| 未回答 | 20 事例 | 3.9 % | 3 事例 | 6.8 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-33 認知症の重症度別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 認知症のステージ 1 | 1 事例 | 0.2 % | — | |
| 認知症のステージ 2 | 9 事例 | 1.8 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 認知症のステージ 3 | 13 事例 | 2.6 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 認知症のステージ 4 | 29 事例 | 5.7 % | 3 事例 | 6.8 % |
| 認知症のステージ 5 | 85 事例 | 16.7 % | 7 事例 | 15.9 % |
| 認知症のステージ 6 | 145 事例 | 28.5 % | 9 事例 | 20.5 % |
| 認知症のステージ 7 | 122 事例 | 24.0 % | 8 事例 | 18.2 % |
| 未回答 | 104 事例 | 20.5 % | 14 事例 | 31.8 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-34 認知症の周辺症状別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-----------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 幻視・幻聴 | 102 事例 | 20.1 % | 17 事例 | 38.6 % |
| 妄想 | 132 事例 | 26.0 % | 19 事例 | 43.2 % |
| 昼夜逆転 | 223 事例 | 43.9 % | 19 事例 | 43.2 % |
| 暴言 | 158 事例 | 31.1 % | 18 事例 | 40.9 % |
| 介護への抵抗 | 249 事例 | 49.0 % | 25 事例 | 56.8 % |
| 徘徊 | 138 事例 | 27.2 % | 16 事例 | 36.4 % |
| 大声、叫声 | 192 事例 | 37.8 % | 19 事例 | 43.2 % |
| 不潔行為 | 121 事例 | 23.8 % | 10 事例 | 22.7 % |
| 他の利用者への危害 | 12 事例 | 2.4 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 暴行 | 72 事例 | 14.2 % | 8 事例 | 18.2 % |
| 施設脱走企図 | 20 事例 | 3.9 % | 3 事例 | 6.8 % |
| その他 | 28 事例 | 5.5 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 未回答 | 21 事例 | 4.1 % | — | |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-35 「妄想」の重症度別及びケア負担感別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|---------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 当該BPSDの症状 なし | 318 事例 | 62.6 % | 26 事例 | 59.1 % |
| 当該BPSDの症状 軽度 | 75 事例 | 14.8 % | 4 事例 | 9.1 % |
| 当該BPSDの症状 中等度 | 84 事例 | 16.5 % | 9 事例 | 20.5 % |
| 当該BPSDの症状 重度 | 31 事例 | 6.1 % | 5 事例 | 11.4 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

介護者が感じている負担度

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 全くなし | 324 事例 | 63.8 % | 26 事例 | 59.1 % |
| ごく軽度 | 34 事例 | 6.7 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 軽度 | 54 事例 | 10.6 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 中等度 | 61 事例 | 12.0 % | 6 事例 | 13.6 % |
| 重度 | 22 事例 | 4.3 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 非常に重度あるいは極度 | 13 事例 | 2.6 % | 6 事例 | 13.6 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-36 「幻覚」の重症度別及びケア負担感別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|---------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 当該BPSDの症状 なし | 322 事例 | 63.4 % | 22 事例 | 50.0 % |
| 当該BPSDの症状 軽度 | 83 事例 | 16.3 % | 3 事例 | 6.8 % |
| 当該BPSDの症状 中等度 | 74 事例 | 14.6 % | 8 事例 | 18.2 % |
| 当該BPSDの症状 重度 | 29 事例 | 5.7 % | 11 事例 | 25.0 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

介護者が感じている負担度

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 全くなし | 330 事例 | 65.0 % | 22 事例 | 50.0 % |
| ごく軽度 | 50 事例 | 9.8 % | 4 事例 | 9.1 % |
| 軽度 | 45 事例 | 8.9 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 中等度 | 59 事例 | 11.6 % | 7 事例 | 15.9 % |
| 重度 | 18 事例 | 3.5 % | 4 事例 | 9.1 % |
| 非常に重度あるいは極度 | 6 事例 | 1.2 % | 5 事例 | 11.4 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-37 「興奮」の重症度別及びケア負担感別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|---------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 当該BPSDの症状 なし | 104 事例 | 20.5 % | 11 事例 | 25.0 % |
| 当該BPSDの症状 軽度 | 126 事例 | 24.8 % | 6 事例 | 13.6 % |
| 当該BPSDの症状 中等度 | 186 事例 | 36.6 % | 15 事例 | 34.1 % |
| 当該BPSDの症状 重度 | 92 事例 | 18.1 % | 12 事例 | 27.3 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

介護者が感じている負担度

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 全くなし | 119 事例 | 23.4 % | 13 事例 | 29.5 % |
| ごく軽度 | 43 事例 | 8.5 % | 4 事例 | 9.1 % |
| 軽度 | 85 事例 | 16.7 % | 4 事例 | 9.1 % |
| 中等度 | 153 事例 | 30.1 % | 9 事例 | 20.5 % |
| 重度 | 70 事例 | 13.8 % | 7 事例 | 15.9 % |
| 非常に重度あるいは極度 | 38 事例 | 7.5 % | 7 事例 | 15.9 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-38 「うつ」の重症度別及びケア負担感別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|---------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 当該BPSDの症状 なし | 316 事例 | 62.2 % | 26 事例 | 59.1 % |
| 当該BPSDの症状 軽度 | 94 事例 | 18.5 % | 10 事例 | 22.7 % |
| 当該BPSDの症状 中等度 | 84 事例 | 16.5 % | 5 事例 | 11.4 % |
| 当該BPSDの症状 重度 | 14 事例 | 2.8 % | 3 事例 | 6.8 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

介護者が感じている負担度

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 全くなし | 326 事例 | 64.2 % | 29 事例 | 65.9 % |
| ごく軽度 | 61 事例 | 12.0 % | 4 事例 | 9.1 % |
| 軽度 | 49 事例 | 9.6 % | 4 事例 | 9.1 % |
| 中等度 | 56 事例 | 11.0 % | 5 事例 | 11.4 % |
| 重度 | 9 事例 | 1.8 % | — | |
| 非常に重度あるいは極度 | 7 事例 | 1.4 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-39 「不安」の重症度別及びケア負担感別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|---------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 当該BPSDの症状 なし | 338 事例 | 66.5 % | 30 事例 | 68.2 % |
| 当該BPSDの症状 軽度 | 77 事例 | 15.2 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 当該BPSDの症状 中等度 | 70 事例 | 13.8 % | 6 事例 | 13.6 % |
| 当該BPSDの症状 重度 | 23 事例 | 4.5 % | 6 事例 | 13.6 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

介護者が感じている負担度

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 全くなし | 348 事例 | 68.5 % | 32 事例 | 72.7 % |
| ごく軽度 | 33 事例 | 6.5 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 軽度 | 47 事例 | 9.3 % | — | |
| 中等度 | 57 事例 | 11.2 % | 5 事例 | 11.4 % |
| 重度 | 14 事例 | 2.8 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 非常に重度あるいは極度 | 9 事例 | 1.8 % | 4 事例 | 9.1 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-40 「多幸」の重症度別及びケア負担感別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|---------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 当該BPSDの症状 なし | 335 事例 | 65.9 % | 29 事例 | 65.9 % |
| 当該BPSDの症状 軽度 | 88 事例 | 17.3 % | 5 事例 | 11.4 % |
| 当該BPSDの症状 中等度 | 72 事例 | 14.2 % | 8 事例 | 18.2 % |
| 当該BPSDの症状 重度 | 13 事例 | 2.6 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

介護者が感じている負担度

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 全くなし | 362 事例 | 71.3 % | 31 事例 | 70.5 % |
| ごく軽度 | 43 事例 | 8.5 % | 5 事例 | 11.4 % |
| 軽度 | 49 事例 | 9.6 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 中等度 | 43 事例 | 8.5 % | 5 事例 | 11.4 % |
| 重度 | 7 事例 | 1.4 % | — | |
| 非常に重度あるいは極度 | 4 事例 | 0.8 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-41 「無関心」の重症度別及びケア負担感別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|---------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 当該BPSDの症状 なし | 218 事例 | 42.9 % | 21 事例 | 47.7 % |
| 当該BPSDの症状 軽度 | 109 事例 | 21.5 % | 7 事例 | 15.9 % |
| 当該BPSDの症状 中等度 | 121 事例 | 23.8 % | 7 事例 | 15.9 % |
| 当該BPSDの症状 重度 | 60 事例 | 11.8 % | 9 事例 | 20.5 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

介護者が感じている負担度

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 全くなし | 249 事例 | 49.0 % | 21 事例 | 47.7 % |
| ごく軽度 | 66 事例 | 13.0 % | 6 事例 | 13.6 % |
| 軽度 | 72 事例 | 14.2 % | 5 事例 | 11.4 % |
| 中等度 | 79 事例 | 15.6 % | 5 事例 | 11.4 % |
| 重度 | 22 事例 | 4.3 % | 4 事例 | 9.1 % |
| 非常に重度あるいは極度 | 20 事例 | 3.9 % | 3 事例 | 6.8 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-42 「脱抑制」の重症度別及びケア負担感別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|---------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 当該BPSDの症状 なし | 287 事例 | 56.5 % | 23 事例 | 52.3 % |
| 当該BPSDの症状 軽度 | 91 事例 | 17.9 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 当該BPSDの症状 中等度 | 95 事例 | 18.7 % | 12 事例 | 27.3 % |
| 当該BPSDの症状 重度 | 35 事例 | 6.9 % | 7 事例 | 15.9 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

介護者が感じている負担度

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 全くなし | 298 事例 | 58.7 % | 24 事例 | 54.5 % |
| ごく軽度 | 47 事例 | 9.3 % | 1 事例 | 2.3 % |
| 軽度 | 59 事例 | 11.6 % | 3 事例 | 6.8 % |
| 中等度 | 68 事例 | 13.4 % | 8 事例 | 18.2 % |
| 重度 | 25 事例 | 4.9 % | 3 事例 | 6.8 % |
| 非常に重度あるいは極度 | 11 事例 | 2.2 % | 5 事例 | 11.4 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-43 「易怒性」の重症度別及びケア負担感別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|---------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 当該BPSDの症状 なし | 217 事例 | 42.7 % | 20 事例 | 45.5 % |
| 当該BPSDの症状 軽度 | 92 事例 | 18.1 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 当該BPSDの症状 中等度 | 130 事例 | 25.6 % | 9 事例 | 20.5 % |
| 当該BPSDの症状 重度 | 69 事例 | 13.6 % | 13 事例 | 29.5 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

介護者が感じている負担度

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 全くなし | 226 事例 | 44.5 % | 21 事例 | 47.7 % |
| ごく軽度 | 49 事例 | 9.6 % | — | |
| 軽度 | 54 事例 | 10.6 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 中等度 | 106 事例 | 20.9 % | 10 事例 | 22.7 % |
| 重度 | 45 事例 | 8.9 % | 5 事例 | 11.4 % |
| 非常に重度あるいは極度 | 28 事例 | 5.5 % | 6 事例 | 13.6 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-44 「異常行動」の重症度別及びケア負担感別の事例数

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|---------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 当該BPSDの症状 なし | 285 事例 | 56.1 % | 23 事例 | 52.3 % |
| 当該BPSDの症状 軽度 | 78 事例 | 15.4 % | 2 事例 | 4.5 % |
| 当該BPSDの症状 中等度 | 97 事例 | 19.1 % | 12 事例 | 27.3 % |
| 当該BPSDの症状 重度 | 48 事例 | 9.4 % | 7 事例 | 15.9 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

介護者が感じている負担度

| | BPSD対応の負担感大 | | 精神科病院へ転院 | |
|-------------|-------------|---------|----------|---------|
| | 事例数 | 構成比 | 事例数 | 構成比 |
| 全くなし | 296 事例 | 58.3 % | 26 事例 | 59.1 % |
| ごく軽度 | 34 事例 | 6.7 % | 4 事例 | 9.1 % |
| 軽度 | 57 事例 | 11.2 % | — | |
| 中等度 | 69 事例 | 13.6 % | 6 事例 | 13.6 % |
| 重度 | 37 事例 | 7.3 % | 5 事例 | 11.4 % |
| 非常に重度あるいは極度 | 15 事例 | 3.0 % | 3 事例 | 6.8 % |
| 患者票の有効回答数 | 508 事例 | 100.0 % | 44 事例 | 100.0 % |

図表 A-45 100 床当たりの事例数別の施設数分布

BPSD対応が必要で負担感が大きい事例

| | 施設数 | 構成比 |
|------------|--------|---------|
| 該当事例なし | 110 施設 | 46.8 % |
| 5件以下 | 72 施設 | 30.6 % |
| 5件超 10件以下 | 27 施設 | 11.5 % |
| 10件超 15件以下 | 8 施設 | 3.4 % |
| 15件超 20件以下 | 5 施設 | 2.1 % |
| 20件超 25件以下 | 3 施設 | 1.3 % |
| 25件超 30件以下 | 4 施設 | 1.7 % |
| 30件超 35件以下 | 1 施設 | 0.4 % |
| 35件超 40件以下 | 4 施設 | 1.7 % |
| 40件超 | 1 施設 | 0.4 % |
| 補助票の有効回答 | 235 施設 | 100.0 % |

精神科病院へ転院した事例

| | 施設数 | 構成比 |
|----------|--------|---------|
| 該当事例なし | 206 施設 | 87.7 % |
| 1件以下 | 14 施設 | 6.0 % |
| 1件超 2件以下 | 12 施設 | 5.1 % |
| 2件超 3件以下 | 3 施設 | 1.3 % |
| 3件超 | — | |
| 補助票の有効回答 | 235 施設 | 100.0 % |

附録 調査票

附録 調査票

以下に調査票を示す。調査票の種類は、「施設調査票」、「患者調査票」、「患者調査の補助票」の3種類である。

附録の目次

| | |
|-------------------|----|
| 1. 施設調査票 | 66 |
| 2. 患者調査票 | 74 |
| 3. 患者調査の補助票 | 76 |

認知症・BPSDへの対応状況に係る調査

＝ 施設調査票 ＝

(提出期限 平成 25 年**月**日)

調査実施主体：公益社団法人 全日本病院協会

| | | | |
|-------|--------|-----|--|
| 病院名 | | | |
| 記入者氏名 | | 部署名 | |
| 連絡先 | 電話番号 | | |
| | FAX 番号 | | |
| | e-mail | | |

I. 基本情報

問 1. 開設者（平成 25 年 10 月 1 日現在、該当する 1 つの番号に○）

- | | | | |
|--------|----------|----------|----------|
| 1 国立 | 2 公立 | 3 公的 | 4 社会保険関係 |
| 5 医療法人 | 6 社会福祉法人 | 7 その他の法人 | 8 個人 |

問 2. 許可病床数（平成 25 年 10 月 1 日現在）

| 一般病床 | 療養病床 | （うち） | | 精神病床 | 結核病床及び 感染症病床 |
|------|------|------|------|------|-----------------|
| | | 医療保険 | 介護保険 | | |
| 床 | 床 | 床 | 床 | 床 | 床 |

問 3. 入院基本料の届出状況（平成 25 年 10 月 1 日現在、該当する全ての番号に○）

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 一般病棟入院基本料 7 対 1 | 2 一般病棟入院基本料 1 0 対 1 |
| 3 一般病棟入院基本料 1 3 対 1 | 4 一般病棟入院基本料 1 5 対 1 |
| 5 療養病棟入院基本料 1 | 6 療養病棟入院基本料 2 |
| 7 その他の入院基本料 | |

問 4. 特定入院料の届出状況（平成 25 年 10 月 1 日現在、該当する全ての番号に○）

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1 救命救急入院料 | 2 回復期リハビリテーション病棟入院料 |
| 3 特殊疾患病棟入院料 | 4 緩和ケア病棟入院料 |
| 5 特定一般病棟入院料 | 6 亜急性期入院医療管理料 |
| 7 特定集中治療室管理料 | 8 ハイケアユニット入院医療管理料 |

問5. 併設の施設・事業所（平成25年10月1日現在、該当する全ての番号に○）

| | |
|----------------|-----------------|
| 1 医療機関（精神病床なし） | 2 医療機関（精神病床あり） |
| 3 認知症疾患医療センター | 4 介護療養型医療施設 |
| 5 介護老人保健施設 | 6 介護老人福祉施設（特養） |
| 7 グループホーム | 8 サービス付き高齢者向け住宅 |
| 9 地域包括支援センター | 10 居宅介護支援事業所 |
| 11 訪問看護ステーション | 12 重度認知症患者デイケア |

問6. 職員数（平成25年10月1日現在） ※非常勤職員は、常勤換算して常勤職員数に加えてください。

| 医師 | 看護職員 | 看護補助者 (介護福祉士含む) | (うち)介護福祉士 | 医療相談員 | (うち)社会福祉士 |
|----|------|--------------------|-----------|-------|-----------|
| 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |

| 理学療法士 (PT) | 作業療法士 (OT) | 言語聴覚士 (ST) |
|---------------|---------------|---------------|
| 人 | 人 | 人 |

II. 入院患者の受入状況

問7. 入院時の認知症*の有無別の新規入院患者数（平成25年7月～9月の3か月間）

※「認知症」とは、認知症である老人の日常生活自立度判定基準のランクⅡb以上とします。

| | 一般病床 | 医療療養病床 | 介護療養病床 |
|-------------------------|------|--------|--------|
| 新規入院患者数 | 人 | 人 | 人 |
| (うち)入院時に認知症と判明している患者 | 人 | 人 | 人 |
| (うち)入院時に認知症でないと判明している患者 | 人 | 人 | 人 |
| (うち)入院時に認知症か否か不明な患者 | 人 | 人 | 人 |

《(うち)入院時に認知症か否か不明な患者》 その後、入院中に判明した患者について

| | | | |
|-------------------|---|---|---|
| 入院中に認知症と判明した患者 | 人 | 人 | 人 |
| 入院中に認知症でないと判明した患者 | 人 | 人 | 人 |

問8. 入院前の居場所別の新規入院患者数（平成25年7月～9月の3か月間）

※「認知症」とは、認知症である老人の日常生活自立度判定基準のランクⅡb以上とします（以下、同様）。

| | 一般病床 | 医療療養病床 | 介護療養病床 |
|-------------------------|--------------|--------------|--------------|
| [再掲] 新規入院患者数 | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 自宅 | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 医療機関（精神病床） | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 医療機関（精神病床以外） | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 介護老人保健施設 | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 介護老人福祉施設（特養） | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) グループホーム | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) サービス付き高齢者向け住宅 | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) その他の介護施設（有料老人ホーム等） | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 上記以外の居場所 | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |

問9. 入院時に併存している精神疾患別の新規入院患者数（平成25年7月～9月の3か月間）

※複数の精神疾患に該当する場合は、主たる精神疾患を1つにしぼった上で該当欄にご記入ください。

| | 一般病床 | 医療療養病床 | 介護療養病床 |
|---------------------------------------------|------|--------|--------|
| [再掲] 新規入院患者数 | 人 | 人 | 人 |
| (うち) アルツハイマー<Alzheimer>病の認知症 (F00) | 人 | 人 | 人 |
| (うち) 血管性認知症 (F01) | 人 | 人 | 人 |
| (うち) 他に分類されるその他の疾患の認知症 (F02) | 人 | 人 | 人 |
| (うち) 詳細不明の認知症 (F03) | 人 | 人 | 人 |
| (うち) 器質性健忘症候群, アルコールその他の精神作用物質によらないもの (F04) | 人 | 人 | 人 |
| (うち) せん妄, アルコールその他の精神作用物質によらないもの (F05) | 人 | 人 | 人 |
| (うち) 脳の損傷及び機能不全並びに身体疾患によるその他の精神障害 (F06) | 人 | 人 | 人 |
| (うち) 脳の疾患, 損傷及び機能不全による人格及び行動の障害 (F07) | 人 | 人 | 人 |
| (うち) 詳細不明の器質性又は症状性精神障害 (F09) | 人 | 人 | 人 |
| (うち) 精神作用物質使用による精神及び行動の障害 (F1) | 人 | 人 | 人 |
| (うち) 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害 (F2) | 人 | 人 | 人 |
| (うち) 気分[感情]障害 (F3) | 人 | 人 | 人 |
| (うち) 神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害 (F4) | 人 | 人 | 人 |
| (うち) 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 (F5) | 人 | 人 | 人 |
| (うち) 成人の人格及び行動の障害 (F6) | 人 | 人 | 人 |
| (うち) 知的障害<精神遅滞> (F7) | 人 | 人 | 人 |
| (うち) 心理的発達の障害 (F8) | 人 | 人 | 人 |
| (うち) 小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 (F9) | 人 | 人 | 人 |

問10. 入院の契機となった疾患別の新規入院患者数（平成25年7月～9月の3か月間）

※複数の疾患に該当する場合は、主たる疾患を1つにしぼった上で該当欄にご記入ください。

| | 一般病床 | 医療療養病床 | 医療療養病床 |
|------------------------------------------|--------------|--------------|--------------|
| [再掲] 新規入院患者数 | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 感染症及び寄生虫症 (A、B) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 新生物 (C、D0-D4) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 血液及び造血管の疾患並びに免疫機構の障害 (D5-D8) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 内分泌、栄養及び代謝疾患 (E) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 精神及び行動の障害 (F) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 神経系の疾患 (G) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 眼及び付属器の疾患 (H0-H5) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 耳及び乳様突起の疾患 (H6-H9) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 循環器系の疾患 (I) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 呼吸器系の疾患 (J) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 消化器系の疾患 (K) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 皮膚及び皮下組織の疾患 (L) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 筋骨格系及び結合組織の疾患 (M) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 腎尿路生殖系系の疾患 (N) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 妊娠、分娩及び産じょく (O) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 周産期に発生した病態 (P) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 先天奇形、変形及び染色体異常 (Q) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 損傷、中毒及びその他の外因の影響 (S、T) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |

Ⅲ. 認知症入院患者への対応状況

問1 1. 入院患者数（平成25年10月1日現在）

| | 一般病床 | 医療療養病床 | 介護療養病床 |
|-----------------------|------|--------|--------|
| 入院患者数 | 人 | 人 | 人 |
| （うち）認知症患者 | 人 | 人 | 人 |
| （うち）BPSDの患者 | 人 | 人 | 人 |
| （うち）精神科病院への転院を考えている患者 | 人 | 人 | 人 |

問1 2. 認知症患者のBPSD対応マニュアルの導入状況

（平成25年10月1日現在、該当する1つの番号に○）

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 導入しているマニュアルはない | 2 院内で作成したマニュアルを導入 |
| 3 外部で作成されたマニュアルを導入 | |

問1 3. 認知症と身体疾患の合併への対応状況

（平成25年10月1日現在、該当する全ての番号に○）

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1 自院の複数の診療科が協働して対応 | 2 外部の専門的な医師のコンサルテーションを受ける |
| 3 提携している他院の協力を受ける | 4 提携している他院へ転院させる |
| 5 周囲に迷惑な場合は個室対応等を行う | 6 その他（ ） |

問1 4. 認知症ケアパスへの取り組み状況（平成25年10月1日現在、最も近い番号1つに○）

- | |
|---------------------------------------------|
| 1 認知症ケアパスがあり、すでに院内で運用している（ a. 院内パス b. 連携パス） |
| 2 認知症ケアパスがあり、院内での運用に向けた準備を進めている |
| 3 認知症ケアパスはあるが、院内での運用は考えていない |
| 4 認知症ケアパスの研究会等に参加して、認知症ケアパスを開発中である |
| 5 認知症ケアパスの研究会等に参加することを検討している |
| 6 その他（ ） |

《「3 認知症ケアパスはあるが、院内での運用は考えていない」を選択した場合、理由を記入してください》

【自由回答】

IV. 入院患者の退院状況

問15. 退院先別の退院患者数（平成25年7月～9月の3か月間）

| | 一般病床 | 医療療養病床 | 介護療養病床 |
|-------------------------|--------------|--------------|--------------|
| 退院患者数 | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 自宅 | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 医療機関（精神病床） | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 医療機関（精神病床以外） | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 介護老人保健施設 | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 介護老人福祉施設（特養） | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) グループホーム | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) サービス付き高齢者向け住宅 | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) その他の介護施設（有料老人ホーム等） | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 死亡退院 | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |
| (うち) 上記以外の退院先 | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) | 人 (認知症 人) |

V. 他の医療機関等との連携状況

問16. 自院で対応困難な身体症状に対応できる医療機関の把握状況

（平成25年10月1日現在、最も近い番号1つに○）

- 1 対応できる医療機関を把握しており、その医療機関と提携している
- 2 対応できる医療機関を把握しているが、その医療機関と提携できていない
- 3 対応できる医療機関を把握していない（理由： ）

問17. 自院で対応困難な認知症・BPSDに対応できる医療機関の把握状況

（平成25年10月1日現在、最も近い番号1つに○）

- 1 対応できる医療機関を把握しており、その医療機関と提携している
- 2 対応できる医療機関を把握しているが、その医療機関と提携できていない
- 3 対応できる医療機関を把握していない（理由： ）

問18. 在宅の認知症患者への診療状況（平成25年10月1日現在、該当する全ての番号に○）

1 自院の外来診療

2 自院の訪問診療

問19. 在宅の認知症患者への支援状況（平成25年10月1日現在、該当する全ての番号に○）

1 訪問看護ステーション

2 認知症デイケア・デイサービス

3 その他（

）

問20. 在宅の認知症患者への支援における連携先の状況

（平成25年10月1日現在、該当する全ての番号に○）

1 認知症疾患医療センター

2 医療機関（精神病床あり）

3 医療機関（精神病床なし）

4 地域包括支援センター

5 居宅介護支援事業所

6 訪問看護ステーション

7 その他（

）

問21. 認知症・BPSD及び身体疾患合併への対応についてのご意見・ご提言（自由回答）

調査票の設問は以上です。ご協力いただき有難うございました。

同封した返信用封筒にて、平成25年月**日までにご返送願います。**

認知症・BPSD患者への対応状況に係る調査 二 患者調査票 二

記載者の職種 1. 医師 2. 看護職 3. その他 ()

| | | | | | | |
|--------------------------------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|---|-----------------|--|
| Q1 入院日 | 年月日を記入 | 西暦 | 年 | 月 | 日 | |
| Q2 退院状況 | 番号に1つ〇 | 退院の有無 | 1. 退院した 2. 退院していない(入院を継続中) | | | |
| | 年月日を記入 | 退院日 | 西暦 | 年 | 月 日 ※退院した場合のみ記入 | |
| Q2 退院状況 | 番号に1つ〇 | 退院先 | 1. 自宅 2. グループホーム 3. 特別養護老人ホーム 4. 介護老人保健施設 | | | |
| | | | 5. 介護療養型医療施設 6. 老人ホーム 7. サービス付き高齢者向け住宅 | | | |
| | | 8. その他の介護施設 9. 病院(一般病床) 10. 病院(療養病床) | | | | |
| | | 11. 病院(精神病床) 12. 病院(その他病床) 13. 有床診療所 14. 死亡 15. その他 | | | | |
| Q3 性別 | 1. 男性 2. 女性 | | | | | |
| Q4 年齢(入院時) | 1. 65歳未満 2. 65~74歳 3. 75~84歳 4. 85~94歳 5. 95歳以上 | | | | | |
| Q5 診断名 | 番号に1つ〇 | 1. アルツハイマー型認知症 2. 血管性認知症 3. レビー小体型認知症 | | | | |
| Q6 調査対象区分 | | 4. 前頭側頭型認知症 5. その他 6. 不明 | | | | |
| | | 1. BPSD対応が必要でケアの負担感が大きい事例 2. 精神科病院へ転院した事例 | | | | |
| | | 《2を選択した場合の転院先》(a. 連携している精神科病院 b. その他の精神科病院) | | | | |
| Q7 入院前の居所 | 番号に1つ〇 | 自宅(家族構成) | 1. 独居 2. 夫婦のみ 3. 夫婦と子 | | | |
| | | 施設等 | 4. 本人と子のみ 5. その他同居者あり | | | |
| | | 医療機関(転棟を含む) | 6. 認知症対応型グループホーム 7. 特別養護老人ホーム | | | |
| | | その他(上記以外) | 8. 介護老人保健施設 9. 介護療養型医療施設 | | | |
| | | 10. 老人ホーム(介護付有料、養護、軽費) | | | | |
| | | 11. サービス付き高齢者向け住宅 12. その他施設 | | | | |
| | | 13. 病院(一般病床) 14. 病院(療養病床) 15. 病院(精神病床) | | | | |
| | | 16. 病院(その他病床) 17. 有床診療所 | | | | |
| Q8 認知症高齢者の日常生活自立度 | 番号に1つ〇 | 1. 自立 2. I 3. IIa 4. IIb 5. IIIa | | | | |
| Q9 障害高齢者日常生活自立度 | | 6. IIIb 7. IV 8. M 9. 不明 | | | | |
| Q10 要介護度 | ※入院時点 | 1. 自立 2. J1 3. J2 4. A1 5. A2 | | | | |
| | | 6. B1 7. B2 8. C1 9. C2 10. 不明 | | | | |
| Q11 かかりつけ医 | 1. 要支援1 2. 要支援2 3. 要介護1 4. 要介護2 5. 要介護3 | | | | | |
| | | 6. 要介護4 7. 要介護5 8. 不明 | | | | |
| | | 1. 入院前からいる(精神科) 2. 入院前からいる(精神科以外) 3. 入院前はいない | | | | |
| Q12 入院前に利用していた主なサービス | 当てはまる番号全てに〇 | 医療保険 | 1. 自院の一般科外来診療 2. 自院の一般科訪問診療 3. 他院の一般科外来診療 | | | |
| | | 介護保険 | 4. 他院の一般科訪問診療 5. 他院の精神科外来診療 6. 他院の精神科訪問診療 | | | |
| | | 7. 重度認知症デイケア 8. 認知症デイケア・デイサービス 9. 精神科デイケア | | | | |
| | | 10. 精神科訪問看護(病院) 11. 訪問看護ステーション 12. その他医療保険 | | | | |
| | | 13. 利用無し | | | | |
| | | 14. 介護予防サービス 15. 介護予防支援 16. 地域密着型介護予防サービス | | | | |
| | | 17. その他予防給付 18. 居宅サービス 19. 居宅介護支援 16. 施設サービス | | | | |
| | | 20. 地域密着型サービス 21. その他介護給付 22. 利用無し | | | | |
| Q13 入院していた病棟の種別 | 1. 一般病棟 2. 療養病棟 3. 回復期リハ病棟 4. その他 () | | | | | |
| Q14 入院の契機となった疾患 | 1. 感染症及び寄生虫症(A、B) 2. 新生物(C、D0-D4) 3. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(D5-D8) | | | | | |
| 複数の疾患に該当する場合は、主たる疾患を1つ選んでください。 | 4. 内分泌、栄養及び代謝疾患(E) 5. 精神及び行動の障害(F) 6. 神経系の疾患(G) | | | | | |
| | 7. 眼及び付属器の疾患(H0-H5) 8. 耳及び乳様突起の疾患(H6-H9) 9. 循環器系の疾患(I) | | | | | |
| 番号に1つ〇 | 10. 呼吸器系の疾患(J) 11. 消化器系の疾患(K) 12. 皮膚及び皮下組織の疾患(L) | | | | | |
| | 13. 筋骨格系及び結合組織の疾患(M) 14. 腎尿路生殖器系の疾患(N) 15. 妊娠、分娩及び産じょく(O) | | | | | |
| | | 16. 周産期に発生した病態(P) 17. 先天奇形、変形及び染色体異常(Q) 18. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R) | | | | |
| | | 19. 損傷、中毒及びその他の外因の影響(S、T) | | | | |

次のページも回答願います。

| | | | | |
|-------------------------------------------------------|--------------------|-----------------------------------------|---------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| Q15 認知症の重症度(入院時) | 記入要領 (p.6 ~p.7)を参照 | ステージ(1~7のいずれかを記入) | | |
| | | FASTにおける特徴(ステージ6か7のみ。英字1文字を記入) | | |
| Q16 認知症の周辺症状(入院時) 入院時点の状況が不明の場合は、要介護認定時点の評価で記入願います | 当てはまる番号全てに○ | 1. 幻視・幻聴 4. 暴言 7. 大声、叫声 10. 暴行 | 2. 妄想 5. 介護への抵抗 8. 不潔行為 11. 施設脱走企図 | 3. 昼夜逆転 6. 徘徊 9. 他の利用者への危害 12. その他 () |

Q17 BPSD の程度(入院時)

1~10について、当てはまる数字に○をつけて下さい(「あり」の場合のみ、重症度・負担度の数字に○)

| NPI-Q(Neuropsychiatric Inventory-Brief Questionnaire Form) | | なし (番号に○) | あり (1つずつ番号に○) | |
|------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|--------------|-----------------------------|---------------------------------------------------------|
| | | | 症状の重症度 (患者さんにどれ程影響しているか) | この症状について介護者が感じている負担度 (介護者にどれ程影響しているか) |
| 1.妄想 | 患者さんは事実でないと思っていることを信じ込んでいますか。例えば患者さんから金品を盗もうとしたり、誰かが患者さんに危害を加えようとしていると言ったりしますか。 | 0. なし | 1. 軽度 2. 中等度 3. 重度 | 0. 全くなし 1. ごく軽度 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度 5. 非常に重度あるいは極度 |
| 2.幻覚 | 患者さんは幻視や幻聴がありますか。実際にはないものが聞こえたり見えたりしている様に見えますか。 | 0. なし | 1. 軽度 2. 中等度 3. 重度 | 0. 全くなし 1. ごく軽度 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度 5. 非常に重度あるいは極度 |
| 3.興奮 | 患者さんは介助を拒んだり、扱いにくくなる時がありますか。 | 0. なし | 1. 軽度 2. 中等度 3. 重度 | 0. 全くなし 1. ごく軽度 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度 5. 非常に重度あるいは極度 |
| 4.うつ | 患者さんは、悲しそうであったり、落ち込んでいるように見えたり、そのように言ったりしますか。 | 0. なし | 1. 軽度 2. 中等度 3. 重度 | 0. 全くなし 1. ごく軽度 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度 5. 非常に重度あるいは極度 |
| 5.不安 | 患者さんは、あなたがいなくなると落ちつかなくなりますか。息苦しさやため息、リラックスができない、過度に緊張している等の、神経質さを示すことがありますか。 | 0. なし | 1. 軽度 2. 中等度 3. 重度 | 0. 全くなし 1. ごく軽度 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度 5. 非常に重度あるいは極度 |
| 6.多幸 | 患者さんは、過度に機嫌がよかったり幸せそうであることはありますか。 | 0. なし | 1. 軽度 2. 中等度 3. 重度 | 0. 全くなし 1. ごく軽度 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度 5. 非常に重度あるいは極度 |
| 7.無関心 | 患者さんは自身の日常活動や、他人の活動や計画に関心がなくなっているように見受けられますか。 | 0. なし | 1. 軽度 2. 中等度 3. 重度 | 0. 全くなし 1. ごく軽度 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度 5. 非常に重度あるいは極度 |
| 8.脱抑制 | 患者さんは衝動的に行動する様に見えますか。たとえば、見ず知らずの人にあたかも知人であるように話しかけたり、他人の感情を傷つけるようなことを言ったりしますか。 | 0. なし | 1. 軽度 2. 中等度 3. 重度 | 0. 全くなし 1. ごく軽度 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度 5. 非常に重度あるいは極度 |
| 9.易怒性 | 患者さんは気難しく、怒りっぽいですか。計画が遅れたり待たされたりすることが、がまんできなかつたりしますか。 | 0. なし | 1. 軽度 2. 中等度 3. 重度 | 0. 全くなし 1. ごく軽度 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度 5. 非常に重度あるいは極度 |
| 10.異常行動 | 患者さんは家の周辺を歩いたり、ボタンをもてあそんだり紐を巻きとったりするなど、同じ行動を繰り返す事がありますか。 | 0. なし | 1. 軽度 2. 中等度 3. 重度 | 0. 全くなし 1. ごく軽度 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度 5. 非常に重度あるいは極度 |
| 合計値(縦列で選択した数値を合算し記入) | | | | |

[注]

| 重症度 | | 負担感 | |
|-------|----------------------------|---------------|-------------------------------|
| 1.軽度 | 症状の存在は感じられるが、はっきりとした変化ではない | 0.全くなし | |
| 2.中等度 | 症状ははっきりと存在するが、劇的な変化ではない | 1.ごく軽度 | ごく軽度負担には感じるが、処理するのに問題はない |
| 3.重度 | 症状は非常に著明であり、劇的な変化を認める | 2.軽度 | それほど大きな負担ではなく、通常は大きな問題なく処理できる |
| | | 3.中等度 | かなり負担で、時に処理するのが難しい |
| | | 4.重度 | 非常に負担で、処理するのが難しい |
| | | 5.非常に重度あるいは極度 | 極度に負担で、処理できない |

ご協力誠にありがとうございました。

この回答用紙を施設調査票とともに、**月**日(**)までに同封の返信用封筒にてご返送願います。

事業実施体制

「BPSDの増悪により精神科病院への入院を要する認知症患者の状態像の
分類モデル及び退院後の在宅療養支援に関する調査研究事業」

事業実施体制

【事業検討委員会】

| | | |
|-----|--------|--------------------------------------------|
| 委員長 | 木下 毅 | 公益社団法人全日本病院協会常任理事 医療法仁愛の会光風園病院理事長 |
| 委員 | 猿原 孝行 | 医療法人社団和恵会湖東病院理事長 |
| 委員 | 清水 紘 | 財団法人仁風会京都南西病院理事長 |
| 委員 | 本庄 弘次 | 医療法人弥生会本庄内科病院理事長 |
| 委員 | 村上 秀一 | 医療法人三良会村上新町病院理事長 |
| 委員 | 貞本 和彦 | 医療法人和昌会貞本病院理事長 |
| 委員 | 大塚 直純 | 医療法人社団大和会大塚病院理事長 |
| 委員 | 仲井 培雄 | 医療法人社団和楽仁芳珠記念病院理事長 |
| 委員 | 武久 洋三 | 医療法人平成博愛会博愛記念病院※平成25年8月31日まで |
| 委員 | 高橋 泰 | 国際医療福祉大学医療福祉学部医療福祉・マネジメント学科 ※平成25年8月31日まで |
| 委員 | 栃本 一三郎 | 上智大学総合人間科学部社会福祉学科教授 |
| 委員 | 田口 真源 | 日本精神科病院協会高齢者医療・介護保険委員会委員長 医療法人静風会大垣病院院長 |

事業担当副会長 猪口雄二 医療法人財団寿康会寿康会病院理事長

事業担当副会長 安藤高朗 医療法人社団永生会永生病院理事長

【業務一部委託先】

みずほ情報総研(株) 社会経済コンサルティング部
石橋洋次郎

【事務局】

公益社団法人全日本病院協会

【事業検討委員会開催日時】

| | | |
|-----|---------------|---------------|
| 第1回 | 平成25年8月29日(木) | 17時00分～18時00分 |
| 第2回 | 平成25年11月7日(木) | 15時00分～17時00分 |
| 第3回 | 平成26年1月31日(金) | 16時00分～18時00分 |
| 第4回 | 平成26年3月4日(火) | 16時00分～19時00分 |
| 第5回 | 平成26年3月20日(木) | 15時00分～18時00分 |

不許複製 禁無断転載

平成 25 年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）

BPSD の増悪により精神科病院への入院を要する認知症患者の

状態像の分類モデル及び退院後の在宅療養支援に関する

調査研究事業 報告書

発行日 平成 26 年 3 月

発行者 公益社団法人全日本病院協会

住 所 〒101-8378

東京都千代田区猿楽町 2-8-8 住友不動産猿楽町ビル 7F

電話 03-5283-7441 (代)